明治三十七年五月七日第三種郵便物認可
四十 月 日發行

明治の女子

萬國の民を御前に集め給はん。——馬太傳二十五章三十二節

明治の女子
【第四卷第五號目次】

評論
萬國學生大會より學ぶ教訓……エー、シー、マクドナルド
救世軍論
日本人對西洋人……T、H、生

聖書研究
神の國……柏井園

文藝
少女ゴエン（コノア）……辻村靖子 河井道子 合譯
物見岩（ヴアン、ダイク）……原口生譯

雜纂
萬國學生大會女子部の活動……エス、シー、フキッシヤー
其他雜報

（女子基督教青年會機關）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治の女子

「明治の女子」は日本基督教女子青年會中央委員が發行する機關雜誌也。

「明治の女子」は一年分郵税共金五拾錢一部郵税共金五錢とす。

日本基督教女子青年會はなすべき青年女子の衛生、社交、智識、靈性上の發達を計るために設けたる機關也。

日本基督教女子青年會中央委員左の如し。

委員長　エム、エ、ホイツトマン

副委員長　岡見悲子

記録書記　エ、ジー、ルイス

萬國基督教女子青年會同盟委員　河井道子

會計　サラ、エリス

明治の女子編輯　松田道子

東京在住委員

津田梅子　渡部初子

エ、ピー、ウエスト　井上友子

宮川壽美子　ジエム、フイツシヤー

平野濱子

地方在住委員

大坂　ケー、ツリスツラム　同　エル、ハミルトン

神戸　ピー、ヘルム　京都　ジ、エス、フエルプス

仙臺　エル、ザフルー　名古屋　イ、エム、ソーパル

弘前　エス、ジー、ゲイン　函館　エム、プツオンロ

日本女子基督教青年會幹事　エー、シー、マクドナルド

同副幹事　エス、シー、フキツシヤー

明治四十年五月十三日印刷
明治四十年五月十五日發行

編輯兼發行人　東京市麴町區土手三番町十五番地　エー、シー、マクドナルド

印刷人　東京市神田區美土代町二丁目一番地　島連太郎

印刷所　東京市神田區美土代町二丁目一番地　三秀舍

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

國木田獨歩著
小杉未醒畫

（新刊）

濤聲

定價八拾錢
郵税八錢
白クロース美裝

鎌倉夫人、波の龍、號外、二少女等十三篇を收む

（新刊）

鉢かつぎ姫

坪内逍遙著

定價六拾錢
郵税六錢

俄仙人

一は優婉極なく一は瀟洒飄逸なる振事劇なり

早稲田大學總長 大隈伯爵序
梅澤和軒著

（新刊）

繪畫鑑賞法

定價壹圓參拾錢
郵税八錢
泰西名畫數十葉挿入

東西古今の繪畫と畫論とを參照して作られたる和軒子苦心の作

文と畫

詩興畫趣

國木田獨歩序
小杉未醒著

定價八拾錢
郵税八錢

十大書傳、夢遊記、水國の秋等十餘篇を收む

殆んど絶版同様なりし獨歩集は彩雲閣にて取次ぎ發賣すべし

發行所 東京神田表神保町 彩雲閣 振替口座四一〇五

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

開拓者

第五號
第二卷

萬國青年大會紀念號（五月一日）

▲歷史となりし萬國青年大會（社説）▲開會の演説（カール、フリイス博士）▲生命と信仰復興の本源（ゲルテーズ）▲基督的生命（ボスウォース）▲我等の主耶蘇基督（植村正久）▲神國の建設と青年學生（宮川經輝）▲基督教と科學（マカリスター教授）▲同題（シムプソン教授）▲國民的偉大の秘訣（アドリヤニ博士）▲印度と基督教（レンウッド）▲英國と基督教（フアレガー）▲佛蘭西と基督教（ボア教授）▲告別演說（モット）

本號に載せたる萬國大會の講演は大抵講演者の草稿より譯せるものにして最も精確なるものなり。加ふるに詳密なる大會の記事及び大會傳道隊の報告を載せ多くの寫眞を挿入して我國空前の盛事の好記念たらしむ。

[illegible]一部拾貳錢　一年壹圓貳拾錢

青年會讃美歌　定價拾貳錢　郵税貳錢

萬國大會講演集
日本文　五月十五日發行（定價五十錢 郵税共）
英文　六月上旬發行（定價壹圓 郵税共）

日清韓英獨佛同譜 **讃美歌**　定價參拾錢 郵税共

柏井園著 再版 **聖書手引き**　定價十八錢　郵税一錢

モット著 **學生生活に於ける耶蘇基督の力**　定價六錢　郵税貳錢

東京神田美土代町三丁目三番地
日本基督教青年會同盟本部

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治の女子　第四巻第五號　明治四十年五月十五日發行

評論

萬國學生大會より學ぶ教訓

エー、シー、マクドナルド

宗敎的活動なると其他の社會的活動なるとを問はず、凡そ活潑なる活動の後には反動の危險を伴ふを常とす。試に見給へ、エス、キリストがバプズマを受けんとてヨルダンの河の邊（ほとり）に立ち給ひし後の光景を。福音記者は其消息を傳へて「イエス、バプテズマを受けて水より上れる時、天は忽ち之がために開け神の御靈（たま）は鴿（はと）の如くに降りて彼が上に來れる見ゆ」と曰へり、イエス此時の御欣び果して如何ばかりなりしぞ、それさへあるに天なる父はイエスを呼んて我心に適へる愛（まな）子なりとの忝けなき御言をさへ賜はりぬ。我等今に於て其當時の有樣を追想するに何とはなしに心躍るを覺ゆ。されどイエスの幸ひの日は永からざりき。彼は有名なるかの四十日間の苦しき經驗に遭ひ給へり。我等の弱小なる常に大なる希望活潑なる元氣に滿ちて活動すること能はず。燃ゆるが如き希望を抱きて活動せる後はをゝかたは冷たき絶望の谷底に陷るなり。我等は常に欣びに滿ちて活動すること能はず。悦びの後常に悲愁の感に襲はる。之を稱して反動の危險と云ふ。夫の高く聳へ立てる峯の上に立ちて大波の如き山々、草深き野原、彼方の湖、此方の小川、心なき雲、眺め來つて我等は見事なる天地の姿に身も心も浮き立つべし。されど一度山を下りて薄暗き谷底に身を沈むれば麗はしき幻は消へ心の悦びは失せて日頃にも增したる憂き思ひすべし。靑年大會は今や過去の事實とはなれり。我等が眼前にかゝりし美しき熱き幻は消へ失せて今は只後の祭りとはなりぬ。我等稍々もすれば氣弛み力衰へ茫然自失せんとす。吁々我等は危きこの後の祭りを奈何にすべき。

然れども反動の弊害は啻に之に止まらざる也。玆に

又警むべき事あり。そは他にあらず我等青年の通有性なる狂熱的氣風を愼むと是なり。我等は往々にして過ぎし昔しの夢に憧れて進み行くべき方向を誤り或は奮闘的生活の眞の意義を打忘れて三たび其身を顧みることをなさず、刻々の務めを忽にすることなきにあらず。之を稱して長夜の夢と云ふ。吁々斯の如きは宗教的生活の本義に適へるものと云ふべけんや！吁々われ等此危險なる後の祭りを奈何にすべき。

パウロは敎へて「我は神がイエス、キリストに由て上にて賜ふ所の褒賞を得んとて、後にあるものを忘れ前にある一つの標準に向つて進まんとす。兄弟よ、我は只この一事を力む」と言へり。愛する姉妹よ、先づ我等が現在の位置を自覺せよ。過去を追懐するは强ちに咎むべきことにはあらず。されど之がために刻々の務めを忘却するが如きは愚なる事なり。又活潑力の生活より轉じて無爲なる生活に飽き果つるは是非なきことなり。然れども平和なる生活必ずしも無爲徒食の生活にあらず。見よ、ナイアガラの瀑布より落ち來りたる穩かなるオンタリオ湖の水は決して爲す處なく空しく渟滯せるものにあらずして更に流れてセントローレンスに灌げるならずや。今は欣び舞ふべき時にあらず、又失望落膽すべき時にあらず。靜かに養ふべきの時なり。而して徐ろに之を實行すべきの時也。凡そ一の新なる現象は必ず新なる責任と義務とを與ふ。一の理想實現せられんか我等は他の新なる理想に逢着せざるを得ず。高尙青年大會豈我等に新しき義務と責任と希望とを與へざらんや。エス、キリストの言に「汝等獲り入れ時になるには猶四ヶ月ありと曰ふ。されど我汝等に告げん、目を擧げて觀よ、はや田は色づきて獲り入れの時になれり」とあり。世の有様は色づきて獲り入れの時とはなれり。我等の義務希望は遠きにあるにあらずして我等の眼前に掛れり。世界の初めより終りに至るまで、東西の差別なく神は何物をか示し常に汝等目を擧げて見よと言ひ給ふ。我等の愚なる、やゝもすれば己れのよとのみ計り一身の苟安をのみ思ひ煩ひて高く目を擧げて見

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

るこどをせず。神は嚢に此一つの市の上に其大なる力と計畫とを示し給へり。迸り出づるものは感謝のみ、されど只感謝し只驚歎するは我等が事にあらず。我等は目を擧げて見ざるべからず。現在の位置を自覺せざるべからず。而して覺り得たる義務の海に於て寄せては返す大波を押し分けて進むの覺悟なかるべからず。生活の活機は過去にあるにあらずして現在と將來にある也。

「それ人の子は旅立ちせんとて其權を僕共に委ね各々になすべきことを授け門守には怠らず守れど命じて立ち去る人の如し。願ふは汝等怠らずして自己がなすべきことを守りて之をなせ。そは家の主人或は夕或は夜半或は鷄鳴の時或は夜明に歸り來て之を見るやも知るべからざれば也」とはキリストが我等に向つて言へる事也。我等は己れの天職と義務とを知るのみにて足れりとすべからず。否我等進んで之を行はざるべからず。己れの實行を以て之に應ふる所なからん乎、謂ふ所の希望義務果して何の用ぞ。我等は日々に事業に勇み進まざるべからず。欣んで起たざるべからず。神の助けは此處にあり、彼處にあり。語に曰く「人もし我に事へんとせば我に從ふべし。我に事ふるものは我所に居らん……我若し地より擧げられなば萬民を引きて我に來らせん」と。會期の中或は會期の後に於て我等が最も快く感じたるは我愛する姉妹の中に實行の勇氣を見たること也。誠に「彼はもろ〳〵の地より東より西より南より北より我等を引き上げ給へり」

畫家あり。一弟子が畫きたりし一幅の繪畫を見て之を許し其部分の精巧なるを賞揚したりし聽て聲を擧げて曰く「宏すぎる」と。我等の微力なる到底此宏濶なる大會の全局を見て其全部を理解したりと云はんや。將又後の事業を必ず完ふし得ると言はんや。然れども眞に神に生きるもの一人にてもありなば其力能く世界の不思議を作り出す力あるを信ず。願くばわれ等をして一人も殘りなく基督の名に依て起ちて歩み、己の職分を完ふするを得せしめよ。而して大會の力を無益に逸せざれ。「人もし我に居らざれば離れたる枝の如く外

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に棄てらるゝ也。人之を集めて火に投げ入れて焚くべし。汝等若し我に居り又我言ひし言汝等に居らば凡そ願ふ所求めに從ひて與へらるべし」

救世軍論

T・H・生

是迄我國の救世軍は世間多くの人々の注意に上らざりき。而して其之は知れるものも同情を以て之に向ふものなく多くは口を揃へて嘲つて曰く、彼等軍人は皆下等なり、彼等は決してクリスチアンの好き模型(タイプ)にあらずと。斯く世間多くの人より蔑視せられたりし救世軍は今回大將ブースの來朝と共に一般の注意を惹くに至り幾分か眞面目に待遇せられ、幾分か尊敬せらるゝに至れり。我等は今の時を以て此救世軍の本質を世間に紹介する好時機と思ふが故に茲に聊か救世軍を紹介し批評する所あらんとす。

然れども精しく考ふれば今救世軍のことを女子諸君の前に於て議論するは聊か見當を誤れるが如き嫌なきにあらず。殊に全く救世軍の目的其本質を知らず或は之を誤解せる諸姉妹の内に只題目のみを見て澤山だと思ひ給ふかも知れず。況んや氣の弱き女子諸君に於てをや。されども救世軍とは決してさる恐ろしきものにはあらず。諸君の友なり、眞の友なり。否眞の友ならずとするも眞の友とならんとしつゝある也。諸君と共に同じくクリストの王國を此世に建設せんとする急先鋒也。故に我等は諸君の好きなると嫌なるとに關せず茲に數言を費さんとす。女子諸君果して我等の擧に賛成せらるゝや否や。

弱者と救世軍。若し**弱き者**と云ふ言を以て**不完全なる者**と云ふことを表はす言なりとせば世間一人も弱からざるものはあらざる也。人並より外(ヒヅ)れて趣味豊かにして意志固く知惠に富み、加ふるに體力壯健にして此世の富と名譽を併せ有するものと雖も多くは不完全なり、弱きものなり。何となれば彼等の一切の力を以てしても未だ以て命の救ひに入りたりとすへからざればなり。彼等の力は境遇の變化を受けては常に動搖しつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ゝある也。故に古の人此眞理を傳へて曰くサマリアの女は富めるが故に其命を失へりと。其意に思へらく、彼女は己れか僅かの富僅かの知慧に誇りて自己の眞の靈魂に忠實ならずして惡魔に組し、自己の靈の居るべき處に居らざればなり。されば彼女は生きたりと雖も實は死にたる也。凡そエス、キリストの心を以て心とせざるものは形は生きたりと雖も實は死にたるもの也。世の達人と稱せらるゝものにして怒り悲み喜び誇りて己れの靈魂を失はざるもの稀なり。故に曰く某牧師は怒り易く時に或は無理なる注文をなし某々先生は出來るは出來ても偏頗なり依怙贔負をなすと。遠くより見たる時に君子の如き人も、接近して之を見る時は恰も海綿(スポンヂ)の如く四方八方に欠陷(あな)のみ多きを常とす。君子人の面目既に斯の如し。天下擾々たる輩豈に不完全ならざらんや。故に弱者を以て斯くの如き不完全なるものを指すの義なりとせば天下の人悉く、不完全にして又弱者たり。

　稱して弱者の友と云ふ。救世軍豈に此等贅澤なる弱者を顧みざるものならんや。否救世軍は現に之等の弱者をも救ひつゝある也。然れども斯の如きは今日の處彼が餘業の一にして眞の目的にはあらず。之等贅澤なる弱者は救世軍が大騒ぎして之を救濟せずとも彼等を教育する機關今日其數に乏しからず。曰く教會曰く靑年會曰く何會其數擧げて數ふへからず。教會は門を開き禮を厚ふして之等の人々を歡迎する也。

　救世軍目下の目的はかゝる贅澤なる人々を救はんとするものにあらず。貧しくして今日の糧にも窮せるもの、意志薄弱にして活氣なく其癖に自暴自棄なるもの、知識乏しして人生の行路に行き迷へるもの、趣味劣等にして穢れたる生活に染めるもの、病あるもの、一言以て之を覆へば墮落して全く世に棄てられたるもの、之等は正に救世軍か全力を擧げて救はんとする所也。我等先日國民新聞を見る。山路愛山氏救世軍に就て語つて曰く『日本には大將ブースが最初に活動したる倫敦のイースト、エンドの如きものありや否や。我日本人にはまた靈と肉とを併せて救はざるべからざるが如

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

き悲境に陷りたるものなきを信ず」と。我等は平生最も愛山先生を敬するもの也。然るに今斯の如き迂濶なる言を聞く。氏の觀察の誤りか若しくは筆の過ちか。何れにしても氏近來の迂論なり。成程我國にはイースト、エンドの如く甚だしく悲境に陷れる所はなし。然れども其に近きものは至る處に之を見ることを得べし。近來社會主義的思潮が學生間にも勞働者間にも著しく勃興しつゝあるを見ても其一般を知ることを得べし。只世間の人は殊更に目を覆ふて之を見ざらんとするのみ。此種の弱者は今日如何なる待遇を受けつゝある乎。宣教師は貧乏なり理屈を說いても解らぬ臭い穢はしはと云ひては陰に陽に之を刎ねつけ世間は全く之を顧みざる也。救世軍はかゝる便りなき者の助けとなりて彼等を靈の上より將た肉の上より救濟せんとするエス、キリストの名の下に立てる團體也。今日之等の助けなきをものゝ友となりて働ける唯一ならずとするも尠くとも最も有力なる團體也。熱心なる團體也。彼等の救はんとする人は世の旦那樣にあらず、奥樣にあらず、御孃樣にもあらず、斯の如きは救世軍が夫の上品にして高尙なる敎會と最も異なれる處なりとす。

我等思へらく我救世軍は益々發達する運命を有し其事業は今後益々擴張せらるゝに到るべしと。其故如何にとなれば、文明の進步は救世軍が救はんとする弱者の數を益々多くし其悲慘の度を一層甚だしくする傾向あれば也。而して之には二つの重なる理由あり。第一は何人も知るか如く人口の繁殖に伴ふ生活の困難是也。世界は廣しと雖もそが產出し得るパンの數には自ら制限なき能はず。然るに人口の繁殖は日に〳〵甚だしく無制限に增加し行かんとす。これ人々がパンに窮するに至る所以也。パンに窮すれば先づ肉の苦みを覺ふべし。從つて敎育を受けるなど云ふ贅澤なる機會は元より之を失ふべし。敎育なければ自尊心を發揮する時機を失し、不羈放縱に流れ自暴自棄に陷り、遂に肉も靈も之を失ふに至るべき道理也。我等が別に說明するまでもなく此原因よりして悲運に陷る弱者は時計のセコンドの數と共に殖え行くべし。世の進步が人類を騷

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

落せしめ弱くなす第二の原因は人、知の進歩と共に人間が自らにしく弱くなり行くこと是也。人知の進歩は我々の神經を細くし其働きを鋭敏にし感情のみ强くして意志は却て之を弱くする也。昔し武士の時代の青年が針程に感じたる苦痛も今日の青年は之を棒程に感じ苦痛の分量急に增加せるが如く感ず。苦みを多く感ずるが故に人生を樂觀すること能はず心細く感じ意氣地なく引込思案となり生存競爭に敗北して益々悲觀するに至る。今の青年の元氣が維新以前の人々に比して大に劣へ居ることは著しき現象也。故に今日世にある老人輩異口同音に我等青年を嘲つて曰く、今の青年は意氣地がないと。

此等の弱き者を助けて立たんとするもの我救世軍あるのみ、ユーゴーは言へり。吾此「哀史」の一卷は天地より悲みの跡か消へ失せざる限り長く世に癈れざるべしと。我等は救世軍の前途につき同樣の言を以て之を豫則するもの也。我此日本の天地より弱きもの助けなきもの世にも哀れなるものが去らざる間は我救世軍は決して我日本の天地より驅逐せられざるべし。

社會と救世軍。昔しエナの町に佛帝ナポンオンの軍が攻め入れることを知らざりし哲學者ありき。茲に我等は世事にうときの學者の好例を見たり。頃者一先生あり。我等に問ふて曰く、救世軍は某社會主義の一派かと。此敎師は救世軍がなしつゝある各種の社會事業の一端を見て世の所謂社會主義と混同したるに似たり。決して笑ふべきにあらず。我等即ち答へて曰く、然らず、救世軍は世に謂ふ社會主義とは全く別物なり從つて何等の因緣も有するものにあらず。救世軍の目的は人を靈肉双方より救はんとするにあるを以て社會上各種の事業例へば經濟上の事業其他社會上の事業に關係せざる能はず。然れども幵は救世軍の第一の目的にあらず。救世軍は宗敎的運動の團體也。人の靈魂の上より救はんとして起れるものにして物質的に救ひ助けつゝあるは之に伴隨して起れるものに過ぎずと。

救世軍の目的人の靈性を救ふにあるとは多くの人の知れる處吾等が茲に多言するを要せず。然れども救世

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

軍の社會に對する態度が往々にして今日世間に行はれ居る社會主主の運動等と混合せらるゝの恐れあるが故に、我等は今救世軍社會の問題を明かにし併せて我等の感想を一言する也。宗教團體にして社會事業に甚だ接觸しつゝある所は救世軍が他の宗派と異なれる誠に稀有の一特色也。而して先づ第一に吾等は救世軍の此事を賛成せざる能はず。今將に飢死せんとしつゝある教育なき人に向つてはバイブルを與ふるよりも寧ろ一片のパンを與ふる方救ひの道に適へるもの也。次に我等が救世軍の世間に對する態度につきて感心に堪へざるは救世軍が今の社會制度及其他の組織を大體に於て認め居ること也。之或種の社會主義に見るを得ざる特長也。元よりクリスチアンとして絕對的の立脚地より見るときは已れのみ優秀の地位を社會に占め他を瞰下すことは能はざる也。先づ之を基督教の謙遜の精神に見るも其他を先きにし己れを後にする愛の精神より見るも、決して階級の別等あるべからず。故に萬人平等が只單に口の上に止まらずして有形的に現はるゝは最も麗しきこと也。これクリスチアンのみならず凡そ常識ある人の認めざるを得ざる眞理なるべし。吾人は曖昧にして、因循姑息なる徒輩がクリスチアンの內に充滿するを歎ずるもの也。彼等の內には全く命をキリストに捧げたりと揚言し乍ら世の金錢を貴ぶことキリストよりも重く權勢に阿附し之を恐るゝこと甚だしきものなきにあらず。殊に近頃奇々怪々の事實あるを發見す。世に知られたる宗教家あり。衆に說く。其言に曰く『某々氏の說は極端也、革命的也。彼はバイブル信者也。』と。吾等即ち嘲つて曰く汝等はキリストのバイブルを信ぜずして果して如何なるバイブルを信ぜんとするかと。我等は斯かる曖昧にして卑怯なる徒輩がクリスチアンの名を瀆すことを深く歎息するもの也。遮莫、我等は宗教家として社會に對する場合に於て先づ第一に社會の制度に注目し之を破壞し又は改革せざるべからざる乎。我等の說は全く異なれり。其の故何ぞや、他なし我等は相對界に棲息し居るが故也。我等の社會は先づ過去の歷史が數千年の間に作り出したる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ものにして到底一事にして之を改むべからず。而して其社會の分子たる我等の力は各人相同じからずして階級の差別等は自らにして發生し來るものなれば吾人之を如何ともするなし。只我々がクリスチアンとして此相對的差別ある世界に於て注意すべきは他なし、先づ基督の道を學びて我々が弱きもの、力なきものなることを自覺し胸に千萬無量の悲みを湛へたる時に最も强く、財ありとて力ありとて之れに誇らず常に謙遜の心を以て世渡りをなすことなり。斯の如くんば此世につける力ありたりとて何かあらん。此世につける力あらずとも悲むに足らざる也。權勢も誘惑なり、貧しきも亦誘惑なり。クリスチアンが心懸けざるべからざることは之等の誘惑苦痛悲みの中を押し分け進み常に其以外に超然たることにありとす。强ちに外部の差別のみに拘泥して內界の生命を忘るゝは今日社會主義者の通弊なり。救世軍が常に內界の革命を呼號して外界の差別に執着せざる態度は最も心ある人の同情を得る所以也。而して世の社會主義等と其撰を異にする所以也。

我等は富み貧しき貴き卑しきもの以上に常に超越せざるべからず。キリスト敎の精神は力にもあらず富貴にもあらず貧にもあらざることを記臆せざるべからず。救世軍は實に此間の消息を知りたりと見へたり。島田三郎氏がブース大將歡迎の席上に於て述べられたる言の內に「古へより宗敎家として起ち能く成功せる人の中に於て大將には一つ見遁すべからざる美點あり。幵は大將が貴賤貧富各方面の人々に同様に同情せられつゝある所也」と。此同情は救世軍がキリストの眞精神を能く理解し能く社會に對する態度を心得居るに由れり。以上述べ來れる所に關係して吾等の感心する所は救世軍が富者貧者に對する態度なりとす。我等は之をば第三の特長として數へざるを得ず。古へより富めるものに救ひの道に入れるもの尠なきにあらず。然れども貧者の其に比ぶること能はず。キリスト曰く、富めるものゝ天國に入るは難しと。然るに救世軍は現に富めるものも天國の門に導きつゝあり。彼等は無理を言つて頭より富者に喰つて蒐ることをなさず。先づ彼

等をして富の人生に於ける眞正の價値を自覺せしめて其最も離るゝことの難きものより離れしむ。斯くて彼等は一方に於てよく富者を利用して幾萬の窮民をも助けつゝあり。其思想の健全にして手段の穩當なる到底世間に散在する救濟事業と其列を同じくして見ること能はず。

救世軍の社會に對する關係や極めて複雜也。從つて其特長も以上擧げたる數ヶ條を以て盡くるものにあらず。今は其二三を摘出したるに過ぎず。我等は我國に於ける救世軍が能くキリストの精神に注意して一方に於ては多くの人に躓きを與へ他方に於ては已れも又亡ぶることと今日の社會主義の如くなからんを希望して息まず。

救世軍人の氣風。宗教の用は甚だ宏大多方面にして如何なる性質、如何なる職業の人と雖も之に取り入ることを得るもの也。故に苟も宗教を信ずるものは必ずしも純平たる宗教家たるを要せず。男子可なり、女子可なり、藝術家可なり、學者可なり、政治家なり、其他社會百般の事業に從事するもの一人として信ずる能はざるものなし。信ぜざるは信ずる能はざるにはあらずしてなさざる也。然りと雖も茲に吾等が考へざるべからざることは如斯宏大多方面なる宗教も一種の同じ經驗同じ形式に依て信ぜられざるべからず。我等クリスチアンの場合に於て之を言へば我等は齊しく聖書中に表はれ居る神の聖旨は之を信ぜざるべからず。然るに今日のクリスチアンは果して聖旨のまゝを行ひつゝありや。或は社交と基督教とを混同し、金錢と信仰情態とを比較し、甚だしきに至つては事務と基督教を混同しつゝあるものゝ如し。牧師と云はず宣教師と云はず、信者と云はず、彼等の頭腦には近時一般に瀆氣さして居るらしく見ゆとは心ある人の齊しく認識する處なり、口に博愛を稱ふるも其愛は自分に便利善き人にのみ及べり。殊に滑稽に堪へざるは傳道師の生活の立派なることとなり。我等の信ずる處に依れば我等クリスト信者は心を貧しくして天來の謙遜に打たれたるものならざるべからず。胸に無限の悲みを蓄へざるべからず。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

饑へ渇く如く義を慕ふものならざるべからず。心清きものならざるべからず。これキリストの教ふる所なれば也。義のことのためには水火の苦みしも之を厭ふべからず。然るに事實は全く之に反せり。宣教師の人々が平凡にして爲すなきはまだ之を許すべし。これ彼等の天分なればなり。然れども其信仰の曖昧なる所は斷じて之を許すべからず。先づ一例を擧げて彼等の態度の曖昧なる例となさんか。本月の太陽の誌上に現はれたる反基督教精神など云ふ問題に對しては牧師諸氏は必ず或は之に答辯し或は駁撃を加へて之を論破するの責任を有す。何となれば此種の反基督教精神は昔より陰に陽に世に現はれたるものなれば也。然るに未だ一も堂々と論駁をば試みんとしたるものあらず。苟も國家などに關する問題の前には戰々兢々として何の議する所もなし。彼等は義のために苦むことを恐れ居れり。之等は今日のクリスチアンが聖旨に戻れる生活の一例に過ぎず。之等の實例を擧げ來らんか本誌の全紙面を之がために費し倘號を重ぬるも足らざるべし。我敬愛する教師の一人は言へり。今日世に持て囃され居る人の同情やよし。彼等が弱きものに對する態度は甚だ浮薄にして思ふだに冷汗のみなり。彼等の同情は之を例ふれば水上に浮べる家鴨の如し。足のみは水中に浸され居るも其全身は水上に露出せるなりと。今日何會何社と稱して世間に奔走するものありと雖も根底眞に淺くして笑ふべきものあり。我等は今日青年男女が往々にして之等の笑ふべき會合を喝采するを見て痛歎に堪へず。願ふ所は我等が獨立心を喚起することを得て聖旨に從ひ已れの信仰を岩の上に樹てんこと也。

世は滔々として浮薄になり行き基督の光は全く暗に覆はれんとするの時に當り、最も自己の立場を明白に掲げ出せるものは救世軍人也。彼等の態度は至つて明白也。曰く涙の中に祈り、祈りに依て起ち全く聖書の旨を信ずと。而して彼等が立つや眞に生命をも惜まざる也。我等曾て救世軍人大會の末席に列す。軍人の一人起ちて祈るを聞く。其要に曰く、天の父よ、父が知り給ふ如く我等はいとも貧しく卑しき家に生れて世に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つける甘き味を知らず。只得たるものは輕蔑と迫害と嘲笑と苦痛のみ。然れども父は我等に涙と謙遜と憐れみと義しきとを與へ給へり。おゝ我涙の味の甘さよ。われは最早平和を得たり。此後と雖も如何に迫害せられ苦められ今死すとも厭はず。何卒我力のあらん限りを使ひ給へと。聞く者をして涙下らしむ。痛切悲壯なる此祈禱忘れんとして忘る能はず。これは恐らくば救世軍人の性質氣風を最も明白に現はせるもの也。今日世にある團體の中に於て最も善くキリストの旨に適ふ生活をなしつゝあるものを擧げよとならば我等は先づ第一に救世軍を推さざるを得ず。謂ふまでもなく我等は救世軍人の外天下基督信者なしと言ふものにあらず。救世軍人中にも僞善者もあるべく、軍人ならざる人の中にも眞のキリスト信者多かるべし。さは言へ我等は今日俗的のキリスト信者が天下に横行するを見て救世軍人の意氣を推奬せざる能はざる也。

救世軍人の傳道法。終りに臨んて我等は救世軍人の傳道法につきて一言せざる能はず。我等は從來軍人の傳道法を餘りに目擊したることなく只之に對する世間の惡評を耳にしたるのみ。然るに先月市内各所に行はれたる傳道會に於て其一斑を知ることを得たり。彼等救世軍人の傳道は先づ之れ**突貫的傳道**と名くることを得べし。吾等は勿論此傳道法が幾多の長所あるは之を認むるも、又大に欠點あるを認むる也。何となれば凡そ**傳道には第一信者となるべき人の心の有樣を知ることを要す**。**第二に傳道者其人を得ざるべからず**。信者たらんとするるのゝ氣心も知らず傳道者其人も得ざる場合には其傳道せらるゝ人々に或は大なる躓きを與へ或は僞善に陷らしむることなきにあらず。ブース大將の如き偉人が大隈伯の面前に於て祈禱したるは最も其突貫的傳道の特長を現はしものなれども世間誰か之を怪とせんや。否只に怪とせざるのみならず却つて此擧を賛成する也。然るに己れの位置力量をも顧みず濫りに突飛なる傳道法を應用して人を躓かしむることあらんか彼等が百の善も遂に何等の功とならず却て世に蔑らるべし。イエス、キリスト訓へて曰く、されど我を

信ずる小子の一人を躓かするものは磨臼を其頸に懸けられて海の深みに沈められん方猶益あるべしと。救世軍人にして眞に人を感化せんと欲せば、先づ己れに顧みる處なかるべからず。而して傳道法に於ても西洋の儘を採用することを止めて日本人に向つて適當なる方法を研究すべし、日本人の氣質を知るべし、其言を知るべし。斯くして一人にても躓かすること勿れ。

我等が救世軍に就きて言ふ躓きこと之に盡きたりと云ふにあらず。我等が前述べ來れる所何等かの意味を讀む者の腦裏に附け加ふることを得れば我等の望み足れり。大將は日本の東洋に於ける位置を考へ日本人をして其隣邦の國民に向つてなすべき所をなさしめんとて先づ日本に來り、氣根か能ふ限りの奮闘をなして今將に故國に歸り行かんとしつゝあり。請ふ、我等をして大將及び救世軍の前途のために祈る處あらしめよ。

日本人對西洋人

T、H、生

藍氏曰く船頭多ければ船は山に登ると。我日本の基督教も又山に登らんとせるもの丶如し。其故は船頭の數餘りに多きに由れり。我國に居る西洋布教者は思へらく日本に於ける基督教は斯く／＼ならざるべからず。即ち其注文する所を見れば要するに西洋人其儘の基督教を日本人内に植ゑ付けんとするにあり。反之我日本の基督教信者は思へらく我々日本の基督教は正に斯く／＼ならざるべからず、即ち全然日本人的のものならざるべからずと。此二つの思想は常に分立し時に或は軋礫することなきにあらず。否軋礫の事實は常に吾等が目撃し居る所にして玆に一々實例を擧げて喋々するの要なかるべし。而し強いて其一例を示せば現今我國基督教界に於ける外國傳道師無用論の如き之也。餘り船頭のみ多き結果として我國基督教界には三派の基督教生れ出でたり。一は全く西洋人流に解釋せられたる基督教即ち純乎たる西洋流の教派也。例せば某教の如き之也。所に依て多少の手加減こそあれ大體に於て純粹に西洋的也。世間此派の信徒なきに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あらず。然れども今日我教界の大勢より見るときは此派の信者は增加の見込なく頽勢を漸く維持しつゝあるのみ。而して之は我教界のために大に欣ぶべきこと也。かゝる信者は今日日本には全く無用なり。何となれば此派のクリスチアンの弊害として其信仰如何にも不自然也。其も其筈なり。西洋人其儘の思想が日本人の其にあてはまる道理なければ也。此派の人は多く木に竹接ぎたるが如き思想を有す。人格は全く二つに分裂して居るが故に其信仰は窮屈にして間々僞善的なるを免れず。斯の如き信仰を持る人には信仰は安心立命の助にあらずして目に見えざる一つの重荷也。其人々の耐忍力は誠に嘉すべきものあるも其苦める有様は他の目にも氣の毒也。然るに之に次ぎて第二の基督教派あり。折衷的基督教派之也。或は混合的教派と稱する方可なるべし。日本の今日の基督教の有樣より言へば東西の思想を融化せるものゝ上に立てる基督教の如きは尙空想に屬するか故に、此派の人々は種々の手段を用ひて器械的調合をなし居れり。此派の人々の信仰の性質は曖昧なり、茫漠たり、懷疑的なり。而して前に述べたる派の信仰思想と同じく不自然也。其信者に活氣なきことと夥しく旗色甚だ鮮明ならず。純西洋的基督信者に比して稍々異彩を放てる所は其信仰が一層完全に僞善的なる所也。讀者試に此種の信徒に思ひを及ぼさば數分間の間能く數人若しくは數十人の人を算するを得べし。今日の所此派の信者の勢力甚だ大也。基督教界の第三の派として玆に述ぶべきは純日本人的基督教派なり。此派は前二者に反抗して起れるものなるか故に其信者は熱心にして血氣に富む。器械的又は不自然にあらずして自發的創造的也。日本の基督教界に眞に成功すべきものを擧ぐれば先づ此派を推さざるを得ず。然れども餘りに血氣に富み多少保存的なるが故に其思想は概して偏狭なり、固陋也。進取的なるにも拘はらず進歩の途は全く閉ぢ居るが如し。

此三派の基督教の分立は、基督教が外國より來れるものなる以上免れ難き現象也。而して此對峙は向後幾十年の後まで繼續するかは吾等之を想像すること能は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ず。然れども吾等を以て之を見れば之等三派は共に宗教界の畸形兒に過ず。最も健全なる思想は東洋西洋の兩思想を融化したるもの丶上に立てる基督教ならざるべからざるは何人も認むる所也。靑年會館に於けるホール博士四回の講演か全委員の演説以上に耳あるもの丶同情を得たるは博士の立脚地蓋しこ丶にありたればなり。博士の講演の要旨に曰く、基督教は其意義深く且つ大也。今後如何ばかり發達して其意義を示すや豫測すべからず。然れども基督教か偉大化し發展するの道は今後一あるのみ。即ち今後の基督教は東西西洋の思想を渾融したる意識に依て解せられたるものならざるべからずと。然り而して我日本は新なる基督教を作るに絶好の地位に居るもの也。故に我國あるものは日本人たると外國人たるとを問はず齊しく新しき基督教を作らざるべからず。新しき基督教を作るには前に言へる如く先づ東西の思想を互に理解し、兩思想を打つて一にするの道を講ぜざるべからず。然らずんば新宗教の樹立得て望むべからず。

然るに此大なる事業——東西の思想を一にすると云ふ事業——の上に大なる蹉きを與ふるものあり。一は西洋思想を誤傳する西洋人にして、二は日本思想を誤り傳ふる日本人也。先づ第一を措き須く第二に就て語る所あらしめよ。若し西洋人をして日本を理解せしむるに到らず從つて宗教界の新發展を妨ぐる日本人あらば其罪は日本人の責任なればなり。我等日本人は日本人の罪を責めざるべからず。我等は我日本人か近來日本の事情思想を誤り、傳ふる幾多の實例を見たり。西洋人に接する日本人には(勿論多くの例外はあるとなれども)腑甲斐なき輩甚だ多し。眞に敬重せられ居る日本の思想家にして西洋人(殊に宗教界に就て云ふ)と接觸し居るものは甚だ尠なきか如し。西洋人に接近するもの丶内には西洋人を恐る丶卑屈漢か若くは西洋仕込みの日本魂なき輕薄兒か然らずんば人間よりも金錢を貴ぶ拜金主義の者あり。彼等が西洋人に事ふるや一見甚だ忠實なるか如くなるも其傳ふる所多くは事實の眞相を誤まり、適中するものと雖も只表面の事實に過ぎず。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

我等は全く事實にあらざるのことを西洋人に告げたる日本人の非行に關し多くの證左を有するもの也。我等は彼等が何故に故らに日本の事情を誤まり傳ふるか其心事を了解するに苦むものなり。頃者一友人あり怒つて曰く、西洋人をあやまるものは西洋人自らにあらずして日本人なりと。永く我國に滯在せる西洋人にして隨分笑ふべき思想を有するものあり。可愛想なるは外人也。氣の毒なるは外人也。彼等は數年の間全く誤れる考へによつて生活したる也。彼等は形に於て生けるも實は死にたるなり。外人の誤解、迂濶なる觀察も其起源新しきものは倘可なり、數年の久しきに亘れる誤解は又奈何ともすべからざるものあり。我等は東西意識の抱合と云ひ新宗教の樹立と云ふと雖も元より西洋人に餘り多大の望みを囑せず、さる重大なる重荷を負はせんとも欲せず。されど親しく日本に來り大に盡すあらんとする親切心ある者が偏見妄執に囚へられたるを見るに及んで如何にも可愛想になれり

日本學生の近狀を外國に向つて誤り傳へたりとて非難せられる人あり。近時有名なる話として多くの人の知る所なり。我等は其誤傳のよか事實なるや否やを知らず。然れども若し事實なりとすれば彼は如何なる言辭を以て江湖に謝せんにする乎。吾等は其辯解なるものを見たり。然れども其辯解か故意に質問の中心點を避けて牽强し附會せるを見て窃かに答辯者の勇氣を疑へり。此事件の如きは多年鬱積し來れる數多の事實が偶々世間に暴露せられたるに過ぎずして斯の如き例は一に之を擧ぐれば積んで山ともなるべし。頃者一外人か日本女學生の現狀を知らんとて集めたる新聞雜誌の切り拔きを見る。新聞の記事位にて日本女學生の品定めをせんとするさへ滑稽なり。何となれば今日學生の實際を知るものは新聞の記事の如きは輕んじて之を顧みるものあらざればなり。然るに其數百枚の切り拔きを見るに大抵當てになるものとてはなく某女生某女學校の醜態を誇大に吹聽せるものに過ぎず。而して此切り拔き集を見て不圖思ひつきたるは其を集めたる日本人の不信切不眞面なること也。我等は外人が常に斯

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の如き不信切不眞面目臆病なる日本人を相手にして其日本人觀を作り得々として日本通を以て居るかを思ふて可愛想になれり。斯かる日本人は其罪洵に三百棒にも値ひすべし、何となれば彼等は西洋人を精神的に殺すものなれば也。吾等の知れる處を以てすれば之等の誤解は外國人中到る處に冑積せるが如し。我等日本人たるもの即ち起ちて此等の事實を掃蕩し外人の日本人に對する誤解を去り彼等か一日も早く正當に日本人の思想を消化し得る樣の道に出でざるべからず。

凡そ人間が互に思想感情を交換して互に他を理解することは極めて困難也。そは壁一種隔てたる我々同胞の間に於てさえ甚だ六ヶ敷也。況んや國土人情風俗習慣を異にする國籍を異にする人々に於ておや。然れども此難關は吾等世界的事業の緒に就かんとする者の必ず切り拔けざるべからざるものなり。殊に女子青年會の人々に於て然らざるさからず。何となれば目下女子青年會は其首腦となりて活動せるもの多くは外人なればなり。如何に多くの事業をなし外見の立派なる事をなすとも若し之等が日本女子の思想を根底とせざるものなりとせばそは只砂上の樓閣たるに止まらんのみ、茲に於てか吾々は外國人に接する人々に對して二三の要求すきことあり。外國人に接するものは先づ自己の尊嚴に注意せざるべからず。心にもなきことを外人の前に喋り立てるは心外の沙汰也。第二に外人の品性生命の貴重なることを顧みざるべからず。彼等が一時の滿足を期待して彼等をして精神的に殺すが如きことあるべからず。若し眞に日本人の思想を解し得ざる時は時に或は喧嘩するも可なり。第三に相互の國情を理解せざるべからず。第四に何事にも同情を以て向ひ心細かに之に注意することを必要とす。而して最後に輕薄にして身の程を知らざる日本人を輕蔑し擯斥し從來の弊毒を一掃せざるべからず。こは女子諸君の名譽のために言ふ也。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

聖書研究

神の國(二)

斗柄庵主人

▲問　猶太人の考へて居つた神の國と云ふ意味と基督の用ひられた神の國と云ふ言葉の意味と大分ちがふと云ふことは御話を承りましてわかりましたが、それにしてもなぜ基督はさう云ふ風に意味の混じ易い言葉を用ひられたてしやうか。

▲答　もしそれが科學とか哲學とか云ふやうな專問の學問てあつたならば、少しても意味が違つて來れば新しい言葉も用ひた方が便利てしやうが宗教はそれとはちがつて平民的のものてあります故、少しは意味の混ずる恐れはあるにしても矢張なるべく分り易く人の口に言慣れた言葉をつかふ方が利益が多いてしやう。我々も宗教のことを人に話しを致します時餘り直譯めいた、英語讀む人てなければ分らぬやうな言葉を避けて、この民族の歴史精神に根ざして居るキッスイの日本語を使ふやうにしなければなりませぬ。さて神の國と云ふ言葉の第一の取り處と申しまするとこの中には利己的の臭味ははいつて居らぬ、公共の精神から出た理想てあつて又公共の精神に訴へる標語てあります。一身一己の利害を打ち忘れて國を憂ひ世の中を忘れにしやと云ふ大きな志が籠つて居るのてす。よし內容が多少間違いて居るにしましても此の精神此の調子は棄て難いものてあります。それてあるから耶蘇はこの處を取られて眞に新しい意味をつぎこまれたのてあらうと存じます。

▲問　御話によりまして神の國と云ふ言葉の價値に幾分かわかりました。それては其の內容は大體どのやうなものてありましやうか。

▲答　國と云へば國家の主權が立派に行はれてすへてのもの其の支配に服し上下の秩序整然と立つて居ること れが國の國たる所以てありましやう。神の國と云へば

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

神の大御心が發る限なく行はれ之を中心として凡てのもの着處を得て居る處そこに神の國はあります。

▲問　つまりそれては神の國と申しまするものはプレトーの理想國のやうな理想世界でありますか。

▲答　無論神の國と云ふものは一方から申せば理想の社會でありますが、學者の夢のやうに縁遠いものではありません。基督は申されました『神の國は顯れて來るものにあらず此處に見よ彼處に見よと人の言ふべきものにもあらず夫れ神の國は汝等の裏に在り』（路加十七。二十より二十二）。神の御心が社會的に行はれやうとするは先づ個人個人の心の裏に行はれればなりません。我々の心の中は亂れた國のやうではなりませんがもパウロの歎じた如く肉の慾は靈に逆ふて賊臣を得顏に跋扈し君主は孤島に蒙塵せる狀態でありまして、國らしひ國と申すことができまする。そこて一つ大革新大整理を致しまして方寸の裡に新しい國を建てねばなりません。一家の裡誰か一人ても心の裡に神の國が立ちましたならば、一面に曇つた空の一角に靑い天が見えて其處からさつと晴れて來るやうに一家の精神的革新を始まるのであります。之を推し及ぼして社會にも神の國が實現せらるのでござります。

▲問　山中の賊を平ぐるは易く心中の賊を平ぐるは難しと王陽明かも申されたやうに、心中の革新整理と云ふことはなか／＼出來難いのに困ります。基督教には何か良い方法がありますか。

▲答　方法と申して世間の所謂方法はありませんが先づ之を得んと欲する心がけ精神の態度を正しくする方が必要であります。先づ神の國は至て重大なるもの尊重すべきものとして之を求ねばなりません。『爾等何を食い何を飲まんと思ひ煩ふなかれ、たゞ神の國と其の義を求めよ』（馬太傳七章三十、三十三）とあります。又神の國を高價なる眞珠に譬へ商人これを見出すならば所有を盡く賣り拂ふて之を買ひ取ることに喩へてあります（馬太傳四十五、四十六）。さう云ふ熱心、即ち思ひ切つた心が出ない中は紛亂麻の如き心の胸を平げて堂々たる國を立つることはできません。

▲問　しかしそれだけては孔子が克己復禮と云つたやうに、又カアライルが、「サルトルサレアタス」と云ふ書物で説いたやうに自分の力を出してしつかり骨を折つて見ると云ふと同じであつて宗教家の教としては何だか物足りないやうな氣が致しまするが如何でござりましやう。

▲答　その事も今ちやうど御話をしやうと思ふて居た所であります。先程申し上げた熱心克己奮發と云ふ方面これは決して忘れてはりません。勵みたるもの天國を取れり（馬太傳十一。十三）とありましやうかう云ふ風に骨を折つてやつて見る人は自身の力だけでは足らぬことを感して來る。謙遜な態度になつて來る。なつて來なければ神の國の消息は分らぬてござりましやう。「心の貧しき者は福なり天國は即ち其人のものなればなり」（馬太傳五。三）とあります。宛も戰争に倦み疲れた生民が太平の日を待ち焦れるやうに神の國を望んで來る。何處かに本統に神の國は實現せられて居る處はないてあらうかと尋ね求める。これ人情の自然てあります。

▲問　紛々たる此の世界へ汚濁なる人の心、いづくも同じ秋の夕暮なる此の世界の何處かに神の御心が完全に實現せられたことがありますか。

▲答　あります。耶蘇基督と云ふ人格の中に實現せられたのであります。

肉に由て生るゝものは肉なり。靈に依て生るゝものは靈なり。我汝に新に生れ更るべきことを汝にすゝめしを奇とする勿れ。風は已が任に吹ん。汝其聲を聞ども其何處へ行くを知らず。凡て靈に生れ更るものも斯の如し。

約翰傳三章

文藝

少女ゴエン（スカイ、パイロトの一節）

辻村靖子
河井道子
合譯

自分は西部加奈他の知人の處に來て未だ幾日もたゝない内に、色々荷物のことなど世話をして吳れた人足や、牧場の馬追ひなどからゴエンと云ふ少女の事を耳にした、勿論會つて見たことはないけれども人々の話をつなぎ合して考へて見ると、氣の克つた男まさりの活潑な世間馴れぬ少女であることが解る、屢々人々の口の端にのぼる所から自分は一度此少女に會つて見たいと思つてゐた。彼女の住んで居る處はロッキー山の東の麓にあるスラン、クリークと云ふ名もなき町から街道か上の方にあつた。スナン、クリークとゴエンの住んで居る處との間には幾つか險しき谷がある。家の前は左は宏い〳〵野原でデビルス、レーキと云ふ湖がエメラルドの如く輝いてゐる。右の方は土地が次第に高くなつて行つて果てはロッキーの高き山に連つて居るのである。文明とは全く緣のない實に寂しい片田舎で、此少女と共に住めるものは彼女の父とポンカと云ふ蠻種の乳母と家の番をする老き犬とのみで、偶然には馬や馬追が其近所に影を見せることもあつた。

自分はスナン、クリークに逗留して居る間或日のこと兼て懇意になつてゐたビルと云ふ馬追ひと野原で一緒になつて例の少女のことを問ひ初めた。もつとも此少女の父とは前に兩三回逢つて談話したことはあつた。馬追のビルは問はるゝ儘に

『甚麼なの態度なのつて話しになられへだ。まあ天降りした若鬼よ』

と譯の解らぬことを言つて打笑ふ。自分はビルが何を言つてゐるか、言つて居ることが解らないので更に問ふた。

『何だつて？解らない比喩され、まあ』

と云ふて正直なビルは多少血迷つた有様で首を捻つて少しの間考へてゐたけれども急に考へが浮ばないのでだしぬけに言ッた。

『解らない』

『解らない？解らないぢや逢つたことはないの？』

『逢つたことない所か每日の樣に叱り飛ばされたり、試合かけられたりしてゐるけれども何にも較べるものかれえ』

餘り話しが要領を得ぬので自分も少々焦れたくなつて來た。そこで更めて『髮の毛は如何だ。まさか坊主ぢやあるまい』と聞いた。

『うむ、坊主ぢやないや。長く腰の所まで振り亂してら。少し紅いにや紅いけど……？』

ヘイと云つてビルと同じ馬追ひ仲間は側から『紅いつたつて己の見たいぢやれえや』と云つて少しく辯護して『それで馬に跨り牛を追ひ廻すことに掛けちや男でも叶やあしれ』と附け加へる。

『ふうむ、一体幾歳になるの？』

『全然、子供だ。たしか十四か十五になつたんべいよ。だから太きつたて知れそもんだ。だけれども誰れでも氣象が活潑で落付き拂ゐるにや驚く。そうぢやれえか？え　？ビル　孰時かもそれ……』と言ひ出す。

『うむ』と云つたばかりて何だが殊更に打ち消さうとする。自分は好機心に驅られて『何だつて？』と聞く。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「いや何でもない」とニヤリ笑つてビルが言ふ。
「何でもない？何でもないことがあるものか。何でもないなんかんと宜い加減なこと云ふない」と云ふ。
「さつさと談話して聞かして呉れ」と自分は迫る。ヘイはクスリ〳〵と笑ふ。ビルは顔顰めて氣の毒な風になる。
「それ其處の丘でビルが可笑しいことやたゞ。おい、男の癖に耻かしいかい。耻かしがつて話しゝないだ。話さないかい？」と言つて相手を揶揄つて居る。
ビルは少々腹立てゝ「默つて居れ。お前が喙入れる事ぢやない。あんまり口が多い」と云ふ。
此時まで氣乗になつて居つたヘイも揶揄ふのを止めた。それで何のこつたか解らない。併し途切れ〳〵になつて這入つて來た話を總合して解釋すると大方こうてある。處の若い者などに大變尊敬せられて公爵と綽名つけられて居る男が或日烈火の如くに怒つて居る雄牛に踏みつけられて居つた。所をビルが行つて救つて遣らうとしてゐたら其卷き添へを食つて二人の大男が一命を失はうとしてゐた。所に例の少女ゴエンが全然帆掛船が一ぱいに風を孕んで疾つて來る樣に馬に乗つてスーッと馳せ寄つて、落ち付き拂て鐵砲に二發の彈丸を込め、覘ひ定めて打ち放つた見る間に暴れ廻つて居る牛は物の見事に斃された。彈丸は其頭部に命中し居るのであつた。こんな譯てビル先生あつた事を皆話されると餘り面目の善い話でもない。ヘイに素破拔かれるを嫌ふのも無理はない。一體西の方へ來て居る人達は自分等か將來しやうと思つて居ることは臆せず話すけれども、昔しのことは善かれ惡しかれ話しすることを好きない、懲悉偉いことゝをする位落ち付いてゐる時もあるが事に依ると大層熱することもあるはヘイの話。

これて公爵〳〵と綽名――彼の本名を知るものは一人もない――されて居る先生がいつか自分に話ししたことが多少解つて來た『馬鹿に當にかむ性質があると意ふと手の付けやうもないだ。それにや皆か惡い。煽動てゝ猫のこと我儘にしただ。荒くれた印度人の中に這入つて印度語を覺へたり氣に入ると其奴等の仲間の家へ泊り込んだりする。付いてゐる奴等がまるてゴエンを女神の樣に思つてる。へい〳〵と云つてくつ付いて歩いてるだ。』
自分は餘りのことに驚いて『何時もそんな鹽梅に離れかゞ附いて行くんだられ？』と聞いた。
『ボンカヤツョーを伴れて行くこともあるだが、此頃は只一人で荒くれ男の中へ一人て行くだ。全然番兵でも附いてゐる樣な見事で』
『家でもそんなか？少しは讀み書き出來るか？教育なんかちつともないのかれ？』
公爵は鼻のさきで笑つて言ふた、『何でそんなことを知るべいさ。雖然、感心なことにや着物も自分で縫ふ、洗濯もする、靴下も編む、それに煮炊も出來る。只氣に向いた時だけよ。それよか、馬や牛や狐や狼や鳥のことの方が善く知つてゐるだ。どうして教育どころの騒ぎぢやないや』
『よく親父さんか我儘をさして置くれ。氣の毒だれ』
『だつてまだ十四か十五位の娘だ。だけども事に依ると大人も叶はない樣な處もあるだ』
『だつて娘の子をそんな我儘さして置いちや氣の毒だ。親父はどうする積りだらう。それとも抑へて行くこと出來んのか？』
『公爵先生は目を圓くして言つた『抑へる!!そんなことが出來たら話しぢやれ。お前さま行つて見さつしやれ』彼女が反身になつて金切

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

り撃ぞ馬追ひどもを追ひ使つる處を。どうしてあんな人間は全く男にだつてあらやしれや。だから皆が御姫様(プリンセス)〳〵と云ふだ。全く見たこたれいが天寬ルーシフアーと言ふのはあんなものだろう』

『そんな女の子があるかれ？』と自分は異しみ問ふた。

『親父は只娘のすることに感心してるだ。誰でも妙に彼の女の傍に寄るもなあ皆好きになつてまるめられちまうだ。人間ばかりぢやれ、飼つてある二匹の犬まで彼娘のために死れと云や死ね』と云つて大層讃めやうとしてゐたが急に思ひ直した様に『全くだ。讀みも書きも出來ないぢや仕様がれいや。それに祈りの本など見たこたあれ』と言つた。

自分は考へた。如何に天賓明敏てあつても此安い〳〵荒野に育つては勢ひゴエンの如くならざると得ない。勿論自然の生活を無理に枉げる必要はない。けれども其上に文明生活の善き種を彼女の心に播いて遣つたならば素晴らしい結果が實つて出て來るてあらふ。殊に可愛相なのは彼女が邪神崇拜に陷つてゐることてある。

自分はデユークの話を聞いて之に擾(うご)かされて何とはなしに心も肉も躍るるを覺へた。そこてゴエンの親父に頼まるまゝに每週歳々とゴエンの住ふ牧場に通ふて女子の知つて居られねばならぬ初歩の教育を授け初めた。

ゴエンを訪問する最初の日は誠に思出の多い日てある。初對面に至るまで遭遇した色々の困難は自分が其後此慓悍なる少女を教育するまでに遭つた色々の困難の前兆を示してゐる。ゴエンの父親も自分が態々數へに山まで登つて來て呉れると云ふので大層欣んだ。叮嚀に道を教へて呉れて家に行く中途の谷まで來て呉れゝばそれよりは自分で案内すると云つた。自分は獨りてスチン、クリークに出掛けた。山を登り谷に降り昇降幾回かして一つの谷に來た。見渡せば巖は壁の如くに兩岸に峙ち瀑布は到る處に掛つて夏尙寒き思ひがある。白楊樺など云ふ樹を突く程の大木が天日を蔽ふて岩石は一面緑色の苔を以て覆はれておるスチン川の水は直足下に淙々として流れてゐる。自分は河の邊の僅かの空地を歩んで居るのてある。此谷こそは其昔し印度人が住んで居つた時から、妖怪變化の本場と言はれて居つて今日になつても日が一度西の山巓に沒すれば誰一人よく此處を通り拔けるものがない處。自分は此處に來て多少薄氣味惡くは感じたなれども實りの有様に同化せられて何とはなしに清爽を感じた。自分はこゝにゴエンの父を待ち受けて日暮れ近くなつて愈々其家へ向つた。あるかなきかの道を登つて谷底を出れば向ふは所謂ロツキーの高原である。向ふの峯の巓は勿論見えない。向つて左は原が次第に高くなり、右の方は次第に低くなり、平常聞(かねて)いて居つたデビルス、レーキと云ふ湖は眠れるが如くにして草深き野の中に横はつ居る。彼方の松林の陰になつて居る所は湖水の色何となく黑く中程の處は紫紺色をなして次第に此方の岸に近づくに從つて水は淺く薄青くなつて居る、前面には園木の柵にて取り圍まれたる二三の人家が見へる。疑もなく姫(プリンセス)君の居まし給ふ處てあらう。自分はそれと思はれる家の門を指して馬を進め乍ら何かの美しき湖の水面を眺めてゐた。

ウヽと云ふ恐ろしい聲かしたと思ふと馬は驚いて宙を望んで立ち上り、自分を物の見事に振り棄てゝ疾風の如くに逃げ去つた。自分は不意を打たれて愕然(びつくり)として居る所に同じ方向に向つて驅け出して行く二つの黑きものを認めた。見れば二つの猛犬が自分の馬を追ひ駈(か)けて行くのであつた、所が後ろの方に自分を見て笑ふ者がある。顧(ふりかへ)ると其は少女であつた。少女は右手に鞭を持ち左手に手綱を持つて馬の前に立つて居る。自分は漸くにして立ち上り聲を怒らして言つた『何を貴女(あなた)は笑つて居るんです。何を佇つ立つて見てゐるんです。早く呼び戻さないか。私

の馬は何處まで追つ蒐けられか分りやしない」

少女は例の紅い髮の毛振り亂してさも〳〵輕蔑した調子でつら惡い程すまして『私、呼び戻さない。見てゐると今に殺されるだらう』と云ふ。

自分は我慢が仕切れなくなつて『よし、そんなら殺して遣る』と言ひ乍ら用意のピストルを取り出す。

少女は『そんなら私、お前を先きに打ち殺して遣らう』と云つて之も又用意のピストルを取出す。驚いて見ると成程彼は既に銃口を自分の胸前に向けて居る。此少女の眼には決心の色が現はれて居る。自分は心膽を奪はれてしまつた。一發放されて萬事休せない內にと思つて急に作戰計畫を變更した。『惡かつた。犬は貴女の命令を聞かないか？何なら呼び戻して吳れないか』と相手の自尊心に訴へて云ふ。

彼少女の顏つきは一度に變つた。『彼はお前の馬か』と云ふより早く馬に打ち乘り、自分が『そーとも』と云ふ返事も聞きもあへず、一心不亂に馬に鞭うち吾が今來し道を馳せ下り犬の跡を追ひ行つた。

自分の馬は命懸けてあるから一生懸命只風の如くに走り行く。併し不思議にも成るべく谷に追ひつめられない樣に丘より丘へと驅けて行く。二匹の荒き犬は足を揃へて聲をもたてず、一步は一步馬に近寄る。

馬の上なる少女は口笛を劇しく鳴らし乍ら下れウォルフ（犬名）還れルー（犬名）と呼はり乍ら一心に馳せて行く。其有樣は女將軍が馬に乘つて三軍を叱咤するにも似てゐる。併し犬は之等の言に耳を傾けず只驀地に追つ掛けて行く。幸にも追はれる馬は土手に止められて進むことが出來ず、知るや知らずや女將軍の方に逆進する。少女は豫て用意してゐる馬を繫ぐに用ふる　綱　を緩めながら進み行つた。綱は宙を廻つて今しも馬の首に喰付かんとして躍り上つた前なる犬の頭に掛る。すると犬は自分の勢ひて首をしめられ可愛想なる聲を出して鳴くもそこに仆れてしまつたのである。自分は思はず惡獸の聲を發せざるを得なかつた。今一匹の犬も仲間が仆れたのを見て立ち竦みになつてしまつた。激しい復讐の念は彼等を襲ふた。吼へる狂ふ泣く殆んど手がつけられぬ。少女は鞭を以てしたゝか犬を撲つた。自分は氣の毒になつて之を止めようとすると『此奴等は私しの云ふ通りにさせます。さうしなかつたら殺してしまう』とと云つて蹴り散る。

餘りのことに自分は益々不憫になつてなつて來た。『それ程責めるのなら寧ろ射殺した方が早手廻しだ』と云ひ乍ら例のピストルを取出すと、彼女は驚いて一匹の犬の上に身を蔽ふ。犬は先刻より打たれる主人には叱られるそれに馬を取り逃したのを無念に思ふとて苦しき〳〵聲をはりあげて泣く。少女も悲しくなつたと見へて泣き出し乍ら『貴君之は私の犬です。手をつけることはならない』と叫ぶ。犬の頭を抱いて『憎いルー、可愛いルー、お前はいけないよ。御前達は惡い……いゝか、惡いと云ふことが解つたか？もう あんな こと しない？』と云ふ。懲しめられたるルーは欣びに堪へず嘷き乍ら跳れ廻らんとする。ウォルフと名くる犬は側から今度は自分が抱いて貰はうと思つて、羨ましさうに低い聲で吠へて居る。先刻まで恐ろしく怒つて居たかと思ふと何時の間にかそれも忘れて喜つて他愛もなく戯れて居る。自分は此無邪氣の有樣に見とれてゐた。

少女ゴエンは暫時自分が居ることすら全く忘れて居た樣であたが、漸くして氣がついて『此犬はいつも私の云ふことを能ぐ聞きます。私が可愛がるんですもの。だけども知らないものが來ると何だつて殺していゝとの許しが出てゐるんです。何だつて殺します』と云ふ。

『それは又どうして？』

『えゝ？』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「隨分寄り附いたものに危險い話しだと云つてゐるんだ」

「だつて家へ來る人は皆公爵と一緒について來るんです。知らない者を只通す位なら家の番になりやしないもの。だつて狼なぞ來るんですもの」

自分が追蒐けられたのも無理はない。聞いて見れば成程最もである。

「デュークは度々來るの？」

「度々來ますとも。彼私大好き。彼人は私のことを姫君てそう云ふの。いろんなこと教へて呉れるけれども、種々な御話しゝて呉れるの。いろんな面白い話を」

熟々見ると成程野育ちの女には違ひないけれども優しい女らしい所が溢れて居る。自分はこれが數分前まで、すまし込んで鐵砲を自分に差向けた又犬をしたゝか打つた女とは思はれぬのであつた。家へ引連れ立ちて歸り行く道すがら彼女はデュークのことを得意氣に語つて居る。自分は顏を眺めてゐた。非常な美人になると云ふのでは勿論ない。例へば顏に笑靨が少ないし口が比較的に太きい所などが欠點である。けれども齒の並びはよし、緑りの暗灰色の目蓋優しき中にもきり、つと引きしまつ處がある。そこが愛する時でも憎みの時にも烈しく見ゆる原因である。ヘイはそんなに赤くないと云つて辯護したけれども髮の毛は成程赤い。併し此髮毛は誠に彼女の寶である。日の光りの具合に依ると其色合が奇麗になつて、馬に乘つて野原を走り廻るときは紫色の霞の如くに後ろに翻へる。

父親から兼て話しがあつたことは少女の方でも能く知つて居るので氣が置けない。門の所で馬を乘り捨てゝ馬はジョーに渡して置き少女は戶の所に立つて自分を迎へ入れて呉れた。其態度には優しい内に威嚴があつて自分は例のデュークの話を思い出した。デュークが姫君と云つたのも無理はない。

自分は大きな居間に案内せられた。其室内は天井は低く。壁は丸木を積んで作り間隙はシツクイて奇麗に塞がれ木などは光る程奇麗にしてある。室内にあるのは机も椅子も腰掛も素人細工で、床には熊、狼、麝香獸、山羊などの皮が奇麗に布きつめてある。壁にはゴエン自らが射止めた鹿の角山羊の獸、鷲の翼其他色々の鳥の羽などが飾り付つられてゐる。ゴエンは之等のものについて多少自慢してるらしい。居室の一隅には石造の大な爐がある。夏なれば上は様々の花を以て裝はれて見事である。其爐と反對の側には他の室へ行く戶がある。此室の中には往昔の花瓶其他の器具が備へらてゐて何となく昔しの榮華の面影を偲はしめるのである。

在るもの皆奇麗で能く整つてゐる。隅から隅迄何れの棚ともなく皆花をもて飾られてゐる。丸木造りの家に草花と云ふ様に其對稱が誠に不思議なれども此小供の居る所と思へば別に不思議もない。(第一章終り、二章以下次號)

物見岩

ヴァン、ダイク作

原口生譯

(上)

自分が歩いてゐる山道の向ふの方は安く開いた野原で、紫色の千屈菜

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の花などが一面に咲き亂れてゐる、夕陽は恰も此寂しい野面を照し、向ふの草叢から此方の杜へかけて神々しい色が靜かに之を覆ふてゐる、白き靄の斷間よりは青空が所々に見られ、銀色の輝き露の中よりは青い海面が遙に漠然と見られる。於是乎、青い花を求めんとする年來の希望は我胸にむら〳〵と湧き、自分は只知らず〳〵野の方に迷ひ込んだ。されど其野の花は自分が思つてゐた花ではなく只千屈菜や龍膽等の小さい花が一つ所に集まつて咲いて居つてほんのりと一面に青く見えるに過ぎないと云ふことが解つて深入りすることを急に止めた。併し遂に元來た道を失つた。多分それはスーザーランドと云ふ池の近くであつたらう。

自分は草場を横切り後返しして道を搜したけれども遂に見出すことが出來ない。兎も角もと思ひ始め出て來た森の中に立ち歸つて來て赤楊や樺の間を彷徨て居る内に彼處此處に道の樣なものが見えるから、其を辿つて行つて見ると皆終局は漠然としてゐて深い藪や濕つぽい谷間に來る位のことである。彼此する内日は山の端に隱れて了つた。何でも山で夜を明すまいと思へば夕暮の光明を出來るだけ利用するに如くはなしと思つて、自分が行き掛けてゐるカンターベリーと云ふ村は多分山の終端から北の方に當るに相違なしと目星をつけ藪の中を物ともせず其方へと道を急いだ。

程なく自分は鬱蒼たる森林にやつて來た。幸ひに道は歩き易くなつた何千年何百年昔の森と云ふのではなけれど、可成大きな楓、白楊、栗などが處を嫌はず立つてゐる。然るに其中に斷れ〳〵になつて全く苔でつゝまれた岩が見える。石垣の名殘に相違ない。吁々此處も昔は可成の耕作地で我々と同じ人々の喜悅希望活動の地であつたのが今斯く見る影もなく荒れ果てたのであらう。斯の如き寂しい暗い樣な所に生活してゐた人の生活は果して、如何なるものであつたらう。此世の果なる哀れ深き此地を耕せし人々の家々は果して何處にあつたらう。

斯く思ふ間もなく、自分は少しく空地のある所に來た。焦げた樣な一二本の林檎の樹があつて、僅か計りのいかんだ實が此處彼處の地上に轉がつてゐて飢えたる鼠の腹を肥して居るらしく思はれる。向ふの方には香木が叢がつて生えそれに薔薇や牡丹などが四方八方から搦み付いて居る。多分昔しの墓場の跡であらう。此方に崩れかゝつた煙突のある所は元主家のあつた所らしい。如斯廢れたる冷たい暖爐の周圍にも嘗ては色々の喜び色々の歎きが取り卷いてゐたことであらう。又若き小供等が此破れたる巣から廣い〳〵世間に飛び出したこともあつたらう。又或時は色々の人が此處に一夜の宿を……

「あぶない！用心なさい!!其古窖の中には響尾蛇が居ますよ!!」

此不意の叫びに驚いて、自分は跳ね飛ばされたやうに引き下つて見れば煙突の陰に一人の男が佇立つてゐた。久しくなる今日まで自分は彼が容貌を忘れること出來ない。彼は未だに生々として自分の記臆に殘つて居る。

彼は黑い着物を着て長い頭髮をなしてゐた。併し帽子は被つて居なかつた。毛髮は石炭の如に黑く長く厚く縺かもつれ氣味て下に垂れてゐた。彼の顏は滑かでひどく青醒めてゐたが、額はずつと開いて鼻と唇とは何處となく引き締つてゐる。若い人にしては大層落ち付きが見えた。如斯纖麗で威嚴美しい顏だちには違ひないが又何處かに常人と異つた所がある。靄に包まれたる彼の眼は只茫然と遠方を眺めて居る樣であるが一度其眼にかゝつた時には其眼の力が自分を貫くかと思はれる位であつた。一層解り易く言へば彼は私を夢に見て居る樣で、恍惚して見詰めてゐる内に、縱横無盡に自分を檢べてゐた。

薄い唇一文字に引き締つた唇も決して棘を含んでゐると云ふのではな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「随分寄り附いたものにあ危険い話しだと云つてゐるんだ」

「だつて家へ来る人は皆公爵と一同について来るんです。知らない者を只通す位なら家の番になりやしないもの。だつて狼なぞ来るんですもの」

自分が追貫けられたのも無理はない。聞いて見れば成程最もである。

「デュークは度々来るの？」

「度々来ますとも。彼私大好き。彼人は私のことを姫君てそう云ふの。いろんなこと教へて呉れるけれども、種々な御話しゝて呉れるの。いろんな面白い話を」

熟々見ると成程野育ちの女には違ひないけれども優しい女らしい所が溢れて居る。自分はこれが数分前まで、すまし込んで鐵砲を自分に差向けた又犬をしたゝか打つた女とは思はれぬのであつた。家へ引連れ立ちて歸り行く道すがら彼女はデュークのことを得意氣に語つて居る。自分は顔を眺めてゐた。非常な美人になると云ふのでは勿論ない。例へば顔に豊麗が少ないし口が比較的に大きい所などが欠點である。けれども歯の並びはよし、緑りの鼠灰色の目差優しき中にもキリヽつと引きしまつた所がある。そこが愛する時でも憎みの時にも烈しく見ゆる原因である。ハイはそんなに赤くないと云つて辯護したけれども髪の毛は成程赤い。併し此髪毛は誠に彼女の寶である。日の光りの具合に依ると其色合が奇麗になつて、馬に乗つて野原を走り廻るときは紫色の霞の如くに後ろに翻へる。

父親から兼て話しがあつたことは少女の方でも能く知つて居るので氣が置けない。門の所で馬を乗り捨てゝ馬はジョーに渡して置き少女は戸の所に立つて自分を迎へ入れて呉れた。其態度には優しい内に威厳があつて自分は例のデュークの話を思い出した。デュークが姫君と云つたのも無理はない。

自分は大きな居間に案内せられた。其室内は天井は低く。壁は丸木を積んで作り間隙はシックイで奇麗に塞がれ木などは光る程奇麗にしてある。室内にあるのは机も椅子も腰掛も素人細工で、床には熊、鹿、野畜獣、山羊などの皮が奇麗に布きつめてある。壁にはゴエン自らが射止めた鹿の角山羊の獣、鷲の翼其他色々の鳥の羽などが飾り付つられてゐる。ゴエンは之等のものについて多少自慢してるらしい。居室の一隅には石造の大な爐がある。夏なれば上は様々の花を以て装はれて見事である。其爐と反對の側には他の室へ行く戸がある。此室の中には往昔の花瓶其他の器具が備へらてゐて何となく昔しの榮華の面影を偲はしめるのである。

在るもの皆奇麗で能く整つてゐる。隅から隅迄何れの棚ともなく皆花をもて飾られてゐる。丸木造りの家に草花と云ふ樣に其對稱が誠に不思議なれども此小供の居る所と思へば別に不思議もない。（第一章終り、二章以下大號）

物見岩

ヴァン、ダイク作

原口生譯

（上）

自分が歩いてゐる山道の向ふの方は安く開いた野原で、紫色の千屈菜

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の花などが一面に咲き亂れてゐる、夕陽は恰も此寂しい野面を照し、向ふの草叢から此方の杜へかけて神々しい色が靜かに之を覆ふてゐる、白き霧の斷間よりは青空が所々に見られ、銀色の輝き霧の中よりは青い海面が遙に漠然と見られる。於是乎、青い花を索めんとする年來の希望は我胸にむら／＼と湧き、自分は只知らず／＼野の方に迷ひ込んだ。されど其野の花は自分が思つてゐた花ではなく只千屈菜や龍膽等の小さい花が一つ所に集まつて咲いて居つてほんのりと一面に青く見えるに過ぎないと云ふことが解つて深入りすることを急に止めた。併し遂に元來た道を失つた。多分それはスーザーランドと云ふ池の近くであつたらう。

自分は草場を横切り後返しして道を搜したけれども遂に見出すことが出來ない。兎も角もと思ひ始め出て來た森の中に立ち歸つて來て赤楊や樺の間を彷徨て居る内に彼處此處に道の様なものが見えるから、其を辿つて行つて見ると皆終局は漠然としてゐて深い藪や濕つぽい谷間に來る位のことである。彼此する内日は山の端に隠れて濟つた。何でも山で夜を明すまいと思へば夕暮の光明を出來るだけ利用するに如くはなしと思つて、自分が行き掛けてゐるカンターベリーと云ふ村は多分山の終端から北の方に當るに相違なしと目星をつけ藪の中を物ともせず其方へと道を急いだ。

程なく自分は鬱蒼たる森林にやつて來た。幸ひに道は歩き易くなつた何千年何百年昔の森と云ふのではなけれど、可成大きな楓、白楊、栗、などが處を嫌はず立つてゐる。然るに其中に斷れ／＼になつて全く苔でつゝまれた岩が見える。石垣の名殘に相違ない。吁々此處も昔は可成の耕作地で我々と同じ人々の喜悦希望活動の地であつたのが今斯く見る影もなく荒れ果てたのであらう。斯の如き寂しい暗い様な所に生活してゐた人の生活は果して、如何なるものであつたらう。此世の果なる哀れ深き此地を耕せし人々の家々は果して何處にあつたらう。

斯く思ふ間もなく、自分は少しく空虚のある所に來た。焼げた様な一二本の林檎の樹があつて、僅か計りのいかんだ實か此處彼處の地上に轉がつてゐて飢えたる鼠の腹を肥して居るらしく思はれる。向ふの方には香木が叢がつて生えそれに薔薇や牡丹などが四方八方から纏み付いて居る。多分昔しの墓場の跡であらう。此方に崩れかゝつた煙突のある所は元主家のあつた所らしい。如斯廢れたる冷たい暖爐の周圍にも曾ては色々の喜び色々の歎きが取り卷いてゐたことであらう。又若き小供等が此廢れたる巢から勇い／＼世間に飛び出したこともあつたらう。又或時は色々の人が此處に一夜の宿を……

「あぶない！用心なさい!!其古窖の中には響尾蛇が居ますよ!!」

此不意の叫びに驚いて、自分は跳ね飛ばされたやうに引き下つて見れば煙突の陰に一人の男が佇立つてゐた。久しくなる今日まで自分は彼が容貌を忘れること出來ない。彼は未だに生々として自分の記憶に殘つて居る。

彼は黒い着物を着て長い頭髪をしてゐた。併し帽子は被つて居なかつた。毛髪は石炭の如に黒く長く厚く靭かもつれ氣味で下に垂れてゐた。彼の顔は滑かでひどく青褪めてゐたが、額はずつと開いて鼻と唇とは何處となく引き締つてゐる。若い人にしては大層落ち付きが見えた。如斯嚴格で威嚴美しい顔だちには違ひないが又何處かに常人と異つた所がある。睫に包まれたる彼の眼は只茫然と遠方を眺めて居る様であるが一度其眼にかゝつた時には其眼の力が自分を貫くかと思はれる位であつた。一層解り易く言へば彼は私を夢に見て居る様で、恍惚して見詰めてゐる内に、縦横無盡に自分を檢べてゐた。

薄い眞一文字に引き締つた唇も決して棘を含んでゐると云ふのではな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

く僅かに、微笑の跡が殘てゐる。滿更無作法ではない。彼が私に注意して呉れる前には彼は面の宏い石の上に坐し崩れかゝつた煙突の後と背中合になつてゐたのである。彼は立ち上つて愛相よく

『今の言ぢや奥實なすつたでしやう。若し左樣であつたら御覽下さい。私は貴兄が此長屋の只今の借家人（響尾蛇）と知己になるのを御好なさらないと思つたんです。其譯を申上さへすれば』

『勿論好みません。御信切、どうも有難う。いやどうも何よりでした。併しこんな嫌な借家人と一緒にこんな處に御在でなさるのは如何ゆう譯ですか。貴君は彼奴が怖くはないですか』

『怖かありません。私は蛇仲間より蛇のことを精しく知つて居ります。此處に居る此奴の樣に十三個の輪を持てゐるのでも私を打つことは出來ません。私はちやんと彼奴等の道り口を知つて居ります。打つて來る前に何時も甘く外します。』

『それはそうとして、昔しは樂しい家庭であつたと思はれる此家が何故こんな不淨な動物の棲み家となるまでに零落したのでしやう』

『零落した？』と言ふ言を繰り返し〳〵言ひ乍ら更に『零落したとおつしやるのですか。如何してそうです。蛇は威程不淨なものには違ひないです。併し元此處に居だ人々の如に惡くはないと思うのです、此處に居た百姓は大の吝嗇家で自分の母を苦め兄弟とは喧嘩し、妻を飢えしめたやうな奴です。妻は餘りの苦しさに時々夫の目を偸んで酒を飲んで腹を肥してゐたと云ふことです。只一人あつた娘の子は母が飲んだ擧句癇癪起して打つたのが元で跛足になつて濟つたし、二人在つた男の子は揃ひも揃つて善い加減な年で家を飛び出し、一人は人殺して終身懲役で牢へ這入つて居る。其擧句此家は燒けて了つた。それは丁度三十年前の事ですが親爺の頭は打碎かれて燒跡に殘つてゐたそうです。それだのに不思議ぢやありせんか、主婦は其時何處かへ逐電して了つたそうです。それに比べると響尾蛇い方が餘程ましでさ。左は言ふものゝ我々は彼奴等を責むることは出來ません。誰れ一人咎むることは出來ません。究竟彼等は彼等の性の趣く儘に働いたのですから。時々面白い。こんな事考へて居ると面白くてやり切れない。』と語りつゞけた。

話し具合が何となく調子外れて變ではあるけれども、本人は何處となく馬鹿に落ち付き拂つて見えた。併し其極めて平靜な態度の下に熱烈なる活氣が隱れて居るのを見ると、恰かも病理學者がやつと或病氣の原因を發見して得意になつて說明するが如くであつた。自分は事が唐突であるので始め一寸變な氣もしたが、意味深い樣な彼の言語態度は自然と自分の好奇心を挑發した。それに彼の話を解つたと云ふ樣な私の態度が深く彼の氣に入つたと見えて斜めならず喜べる彼の容貌が私の氣に入つた。それで

『威程、隨分酷い話ですね。田舍の人の生活も、して見ると無邪氣でも平和なものでもありませんね。併し如何して貴君は御存じですか、』と私は聞いた。

『私ですか、私は何事でも洩さず研究することが好きで、殊に人情を研究することが大好きですから、近所の人の事でさえあれば色々と取り調べてゐます。其が私の第一の道樂です。私は小兒を敎へて生活費丈は不自由しません。それで傍ら人間を研究して樂しみにしてゐます。いや、これは失禮、貴兄はこれから何方へか御出でになるんでしたか。暗くなり掛けました。行きましよう。少し御案内致しましやう。此屋敷跡に御出でになる前には何處に御出でになる考へでしたか』

『カンタベリーに行つて一晩なりと一月なりと一年なりと氣が向く間だけ泊る考へです。私の旅行は旅行と云ふより寧ろ放浪です。時間を定め

て歩くのでもなく何處ぞ目的地などゝ云ふものはありません」

『そんならカンタベリーの宿屋より遙かに善い處を推薦しますから其處に御出でなさい。私が敎へてゐる學校に私と一緖に行きましやう。村より九千尺程高い處にあるのですから空氣は淸潔だし景色はよしそれに話し相手もあります。此頃は幸ひ學校も休暇で室も隨分あいて居ります。校長はアイザツク、ワードと云ふ人ですが客を待すことが大變に好きです」

其すゝめ樣が餘りに出し拔けて一風流變つて居るので一寸自分は此招待に應じ兼れた。併し彼は若し私が學校に立ち寄らずして通り拔けたらばワード校長が痛く失望するであらうとか、何んとか色々のことを言つて宿泊を奬める。遂に自分は彼の申出を辭り兼れ之に從つた。

屋敷跡から步くこと二三分間で我々は人通りに出た。山の横面に迂廻り〳〵つて居る道を登り乍ら私は色々彼の事に就て聞きくを得た、彼の名はエドワード、キーンと云つて山の上の學校で羅甸語と希臘語と敎へてゐる。彼は元々牧師になる積りで神學などを學んでゐたが、自然の傾向が其に適せず何となく面白くないからして其硏究を止めて貰つた。こんなに自分の經歷を話しゝても彼は決して臭い物に蓋すると云ふ樣な風なく極開けつ放しに語つたのである。

『牧師や宣敎師などゝ云ふものは人にあゝ爲よ、斯うせよと云つて八ケ敷言はなければならないが、私の考へではそれは畢竟無意味です。其譯はと云うと人々の行を改めさせると云ふこと出來ないからです。人間は之を例ふれば樹木のやうなものです。澁柿は澁柿、甘柿は甘柿と初めから性質が定まつてゐます。』

『併し木を接ぐことが出來るのは如何です。接木すると果實の性質まで が變つて來ます。』

『ですけれども。接木して其が一本の木になつたと思ふのは間違ひです。二本つなげば矢張り二本の木で生活してゐます。只一方の木が他を壓倒するだけのことです。他の一方は不相變土の役目を務め乍ら生きて居るのです。全然變るもんですか」

道は谷間に隱れてしまつたが又登り始めた。それから山の横合をぐる〳〵と廻つて居る。直ぐ上の方から歌を歌ふ聲が暗の中をフワリ〳〵と浮んで來た。歌は英國の詩人ロバート、ヘリツクの叙情詩

ながらへてよと、のたまはゞ
いばらの山も、われはいとはじ。
またあいせよと、のたまはゞ
あかきたましひ、きみにさゝげん。

と云ふので、韻かに女の聲である。生々とした又はつきりした聲で而も其内に言ふに言はれぬ優しさが籠つてゐて我胸の血は躍るを覺えた。キーンの步調は急に早まつた。忽ちにして薄暗がりの中から白く麗はし姿來した少女の姿が靜かに現はれる。彼女の姿の美は、薄明りの間に於てゞさえ認むることが出來る。鳶色の眼、フサ〳〵とした髮、純潔と信賴とに滿ちた其顏、今だた我記臆に止まつて居る。併しよく〳〵見ると何處かに不安の念が宿つて居る樣であつたが、それが却て彼女の風情をましたのである。

『漸今頃ですか。大變遲いのね。一日中家に在らつしやらないんですもの。隨分心配してゐましたわ」と進み寄り乍ら已れの手をキーンの手に持せ掛け乍ら言つた。

『そんなに心配しなくたつていゝさ。そんなに遲かありやしない。それに獨りぢやないんだもの」と慰めるが如く語り乍ら私をワード校長

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の旗に紹介して呉れた。

　言ふまでもなく此等兩人は戀ひし戀ばれてる仲であつた。併し彼等と共に暗がりを歩き乍ら善く彼等の話を聞いてゐると彼等の愛の中には少し不思議な調子があると思はれる。女の方では何の考へもなく譯もなくしほらしく默つて居るのにキーンの方ではさも〳〵年取つた姉さんが五つか六つ位の子供をあやす樣な調子であつた。兎に角彼等が、戀せる仲——否親の許した戀せる仲——であるに違ひないことは、御互ひの所作で解つてゐるけれど何だか、

　狂へる琵琶の音の如（テニスン）

と云ふ歌を思ひ出さずには居られなかつた。無論御互ひには之を知つてゐないらしい。女の方では無論男を解つてゐないし、男も又聊か女の本體を理解してゐないらしい。何となく不安の影が戀人の顏にほの見ゆるのは其故であらう。

　三人は三人共てんでに異つた考へを持ち乍ら、我等は遂に學校に達した。案の通りワード先生は大に自分を歡待して呉れた。晩の御馳走も濟み色々面白い話なども出て、夕方御互ひに有つてゐた只ぼんやりとした心配など更々無くなつて、其夜私は丁度心易き友達の中にてもゐる如くに極めて安樂に眠つた。

（中）

學校から見た景色は實に見事であつた。此學校は連山中の最北端の山頂に建てられてゐた。南の方は、大波に 波打つてゐる 大きな山が 亂れ登えてゐて、何にも見ることは出來なかつた。其かはり北は宏濶なる原野て林、牧場、穀畑、果物畑、白い道路、こん もりした 町などが 其間に散點して一面に 日光がぱつと 此等を照破してゐる。薄黑い煙がぽつり〳〵と空中に浮いて見えるのは此平原をつゝ切る汽車が名殘りに置いて行つたのである。いや此高い處から遠く離れて見てゐると迅き汽車さえ如何にものろく物憂げに見へる。大河が大きく迂廻て遠くキヤツキール山の麓に流れ込んでゐて、其河畔には小さな町か所々に見られる。青々たる水の表には小さきボートが蟲の如くに匐つて此處の岸彼處の岸に行つて止り、又澤山の艀舟がパツ〳〵と煙を吐いて行く小蒸汽に引かれて流れを遡つてゐるのもあるし、玩具の如く白く塗られた蒸汽船が靜かに流されるが如くストーム、キングの方に進むのが見え一本柱の帆前船が苦しさうに河を漕ぎ上つてゐるのもある。紛雜なる人事も大なる自然の力に淨化せられては面白く可笑しく又捨て難き眺めとなる。顧て我々の生活を見れば成程世を掛け離れた山の上に暮してゐるので言はゞ仙人めいた生活であるけれど、それは只外部の有樣で御互ひの間の關係は矢張り世の數には洩れなかつた。

　主人のワードは人物は平凡なるにせよ世の利害得失は全く超脫した人であつた。若い時は彼は大の 旅行好きで色々新しき事を 見もし聞きもし、ために是非は扨て置き所謂自分の意見と云ふものを持つて歸つた。そこで彼の說に依ると、學校と云ふものは家庭などにもまして人間生活上重要なるものであつた。何故かと云うと學校には色々の人が色々の家庭から出て來て自由に交際して所謂社會的精神を養成することが出來るからである。彼は『私の學校は一個の小宇宙の樣なものです。茲で私が小供等を集めて一緒に勉强させ、一緒に心置きなく面白く、邪なことをさせない樣にして遊ばせさえすれば社會に出てから共同的事業が出來ると思ふのです。勉强も大切ですけれども御互ひに助け合ふ樣にすると云ふことが大事です。究竟社會の平和安寧と云ふことが人間の目的で敎育と云ふことは小供の特殊性をうまく其の目的に合ふ樣にして行くのです

な」と言つた。小供の特性など丶言つて見てもワード先生位人間の數を知らないものは多くない。彼の言ふ所に從へば人間には凡そ三種類ある。即ち科學式に出來てゐる人と實際的な人と詩的に出來て居る人とある。色々あると云ふもの丶それは譯の分らぬ人の言ふことて人間の特性は此三類に過ぎないと云ふのが彼の意見て、人間精神の奥底に潜んてゐる神祕的な作用に就ては全く思ひ到つてゐなかつた。彼の知つて居る人物に類性のみて彼は眞の意義に於ける個性と云ふものを知らなかつた。左は言へ兎に角彼は友情に富んだ人好きのする隱者てあつた。

頃ドロシーは始めて瞭て見た時よりも美しく、其人に訴ふるが如き風情は又得難きもの丶一つてあつた。人に頼り縋る樣な又何か訴ふる樣な優しい處があるから、彼女は腑甲斐なき軟弱一方てあるかと云ふにそうてない。彼女の栗色の眼には清き強き光が具はり、優しき姿には一種の品位があつた。母樣を失つた彼女、日中仕事に攻め立てられてゐれど何の苦もなく片附けてゐる。彼女の傍に近づくものは何となく胸がさつぱりする樣てあつた。最も好きなものは音樂て晩夏日の長い夕暮には樂器を弄んて興を遣つてゐる樣の優はしさ。彼女が常に彈奏してゐたものはチヨピン、グリーグ、シユマンなどの作て、又好んて端唄、英蘇の古歌、獨逸の民謡などを歌つてゐた。彼女は女の如くに歌ひ天女の如く歌はなかつた。

二人の助手がある内てキーンの方が年上て、若い方はジヨン、グラハムと云つて總ての點に於てキーンの性格と異つてゐる人物てあつた。頑丈て髮毛が鮮かて顔は美しいけれども何處とて別に取り處もなき、先づ世間に在り勝ちの人間てある。戸外遊戲が好きて又一寸巧みて能く働いて又能く眠る人てあつた。自分が學校に厄介になつたときも漁に行つてゐたが、二三日目に歸つて來た。其時の事ども少しく鼻にかけて而し嫌味なく談ずる有樣、如何にも罪のない快活な人てあつた。九月中頃には生徒が學校に歸つて來ると云ふので盛に其用意をしてゐた。併し最も自分の注意を牽いたのは彼がドロシーに對する態度てある。彼は慥かに彼女を愛してゐた。ドロシーと話してゐる時は他の人はまるて其見物人てあつた。彼の素振りには毫も失敗せる戀人の影が見えない。彼はドロシーの事とし云へば中々に面倒を見て遣つてゐる。ドロシーにも又其を不快に思ふなど云ふ風はさら／＼なかつた。彼キーンを蔑んて居つたにしても彼は少しもそんな風を見せなかつた。彼と雖もキーンとドロシーとの婚約の動かすべからざるものなることは能く心得てゐる筈。キーンの方を見れば彼の面目は生き／＼として何となく人を引き付ける實力が殖えて來たかと思はれる。如何にも彼はドロシーの詩的空想的性質を牽き付けるに適してゐた。彼女がキーンを撰んて自分の戀人となしたのは無理もないことてある。

於是乎、此山の上の學校に於て少なくとも三人の役者が立つてゐる。國語の級を受け持つ樣に頼まれて暫く此處に滯在する樣になつた自分は、此三人の役者に依て演ぜらるべき芝居——恐らくは小さな面白き喜劇——の成行を見てゐた。併し何だか此喜劇には何となく胸騷ぎのする分子があつた。それはキーンの性格てある。彼は全く人と調和しない何となく落付かない不思議の性格を持つてゐる。何かゞ常に誘ひ出してゐる樣てある。魔がさしてゐる樣てある。故に此芝居はキーンを中心として發展するに違いないと見當をつけてゐた。彼は或日言つた。

「貴兄が此處へ居られるのは我々にも大變宜しいのてすけれども、今に此處の生活が窮屈に感じますよ。ユリシスの如く貴兄は又世の中に出て限りなく進んて行きたくなりますよ」

「君が此處て滿足して居られるのに僕ばかり束縛を感ずる譯はないてし

やう』

『私は窮屈な處に住んでゐる代りに一つの滿足があります』

『君にはほんにそうですね。結構です。滿足がありますね。あんな人がゐて呉れさえすれば何處に居たつても生活は愉快です』と心に彼の戀人ドロシーのことを思うて言つた。

『私の滿足と云ふのはそれぢやありません。戀愛でどうして窮屈な生活の苦が醫されますか。宏々とした生活の味が解りますか。戀は人間の心を狹めます。人生を宏濶にするのは智識です。自由にするのも智識です。力を與えるのも智識です。愛は其反對で樂しいけれども苦しいです。究竟一つの幻像ですな。幸福な夢ですな。そうは思ひまんか』

『何ですつて、君の言はれることは一向に分りません。あんなだのに貴君はドロシーを心では嫌つてゐると云はれるんですか。今の御互の關係を夢だとか幻像だとか言はれるんですか。殘酷ですね。え!!』

『左樣ぢやない。左樣ぢやない。私は彼女がいなければ寂しいです。つまらないです。併し戀だけが人生の事實ぢやないと云うんです。世の中には、もつとずつと宏い〳〵何か――そう、宏い何か――』

『何を惚けたことを言つてゐるんです。少し眞面目に御成りなさい。大に人を賤ひます。餘り書物ばつかり讀んで居るとそうです。頭の虫の居所が惡い。暫く散歩でもしませう』

　其散歩こそ最も彼が好む所である。彼は輕く迅く何處まで行つても疲れない非常の健脚の人であつた。彼は近邊到る處の谷、山道、狩りの道など精しく知つてゐた。人と歩くことなく止むを得ずんば一人の友をつれて行く。それに不思議なのはドロシーと歩くことは極めて少ない。ドロシーと稀に歩るときはほんの近所だけであつた。それが自分と一緒となると、山坂登り降りして遙か遠方の山の頂までせつせと歩いて行く。

面して少し見晴しの善い山の絶頂に來ると妙に浩然の氣が胸に還ると云ふ塩梅に樣子が全く異ふ。雄になる。恰かも風を受けて燃えてる石炭の如く元氣が一ぱいになり始める。そして快活なる調子で眼下に見える村々家々の事に關する不思議の物語を非常に流暢に自分に話して呉れた。

　併し最も長途の遠足をする時は自分をも伴はず全く單獨でやつた。土曜の日にはいつも長い〳〵遠足をしてゐたが家を出るにも入るにも辭讓もそこ〳〵にして飄然として行つた大抵暮れて遲くなるまで歸らぬ。ドロシーは心配して何時も出迎へに行く。遲くなつて歸つて來ても散歩して來れば快活である。併し或日此遠足の報ひが來て憂欝症に罹つた。默つて鬱いで苦りきつて人を毛嫌ひして半ば無意識的ではあるが友情や戀愛が足手纒になると云う風を示した。勿論亂暴な言を發すると云ふ樣なことはなかつた。近づけば驚いた樣な目をして頭の天邊から足の爪先まで人を見るのであつた。

　ドロシーに對してもそうであつた。花を手折つてキーンの處に持つて行つたと思つたらば唇をぶる〳〵と震はして歸つて來て泣き出しそうな顔して花を棄てた。棄てた花はあとでグラハムが拾ひ上げて居たのを自分は見た。斯樣な風で、或時は彼は親しい友達の如くになり又或時は全くの他人の如くになつた。譯は解らないければ兎に角此精神の動搖か彼の散歩と重大な關係あることだけ解つた。

　或日彼の不在中話が持ち上つた。主人ワード先生は言つた。

『彼は理想家空想家です。それであゝなるんです』

『左樣ぢやありません。餘り感情に負けるからいけません。克己の力がないんです。ともすると立派な性格を壞します。』私がキーンを批評すると、ドロシーは

『始終無理に同じ樣でなくつたつていゝと思ひますよ。偉い處があるか

らあゝなんてすよ。随分お考が深いんてすもの。それててすよ。執にしたつて自分が心にない　事をするよりか善いぢやございませんてしやうか』と言つて眞面目てあつた。グラハムは傍から
『そんな何も六ケ敷言はなくつたつて宜いてしよう。それよりか歌ても少しやつて頂きましようか』
と言つたので話も途切れ、彼女は歌ひ始めた。平和な夜が歌と共に家の内を支配するまで歌ひつゞけた。

＊＊＊＊　＊＊＊＊　＊＊＊＊

永い間の休日も其終りを告げ、小兒等は一同打揃つて學校に歸つて來た。學校の機關は初めは徐々、少々の軋轢もあつたが次第に滑かに次第に速かに動きだした。波をなして連なつてゐる山々にも秋風立ち初め深緑の森は黄色くなり紅葉し遂に一體に黒くなつた。キーンの心の動揺は日と共に回數を増し傾向が極端になつて來た。それて家内の人々と彼との間には橋渡しの出來ない程の溝戸が設けられた。其につれてドロシーとグラハムとは次第に接近して來た。而もキーンは其を好むでもなく知つて二人が接する機に突き付けて何か其間の關係に深い興味を以て見てゐる。時に依ると彼は全く人事を忘却した如く超脱した如く、茫々然として物に對した。

十月の中葉にドロシーの誕生日が來て其日は一同休むことになつてキーンの外誰れでも贈物をした。ドロシーは其を氣にして泣きそうになつてゐた。キーン全く此誕生日を忘れてゐたけれとも、彼女の可愛想な有様が目については其と氣が付き大に驚き且つ愧ぢ、其日の野外遊宴(ピクニック)に行くのを止めて、何處ともなく出て行つた。午後家族皆揃つて焚火の周圍に集まつて遊んて居つた時、キーンは鈴を鳴らして大股に走つて來て眞珠と猫眼石て作つた飾針を突然ドロシーの手に置いた。

『本當に濟まなかつたれ。大變に遅くなりやしなかつたかしら。ニューヴまて來てから汽車に乗り遅れて歩いて來たもんたから』
『エドワード様、何てまー奇麗なんてしよう。どうも有難う。こんなことなさらなくつても一緒に在つしやれば善かつたのに。随分面白かつたのよ。惜しいことしてれ』
其日はキーンは一身になつて人々を樂ませうとして居つた。自分も喜び人も亦彼が常になき快活な言語動作を見て大に喜んだ。ドロシーの凋(しぼ)める心様は丁度朝日を浴びる花の如く開いた。

併し平和の日は永く續かなかつた。キーンの元の變調子はずん／＼戻つて來たのみか却つて激烈になつた。其につれてドロシーの苦みは又一通りてない。悲み、悶え、驚きは、日に／＼増し行くのみ。其有様意地らしくも憎らしくも見える見るだに痛心の種であつた。グラハムは如何かと云ふに彼も此頃から一切の素振りが違い無頓着て滑稽家てあつたのが急に沈默し考へ深く怒り易き人間となつた。ドロシーに對しては不相變優しいけれどもキーンには愛想なく何時も邪慳に當り散してゐた。一緒になることがあれば亂暴な皮肉な言を發してゐた。勿論成るべくキーンと逢はない樣に、又逢つても成るべく惡感情を抑え樣としてゐた。キーンの方ては之と反對に相手が躍起になればなる程落付き拂つてゐる。グラハムは或土曜日の晩方自分に『是處の近來の有様は、まあどうてしやう』と云つた。
『左様です。何だか變です。御氣の毒てすが。僕には一向中の込み入つた事情が解らないてしてれ』
『なに、私には解つてゐます。私はてすからキーンと逢つて直ちに結着を付けやうと思ひます。彼奴はドロシーの心を破りかけてゐます』
『だつて、君が所置を付けられるのは如何かさ』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「だつて、それでは外に誰れがします」
「ドロシーには御父樣が有りまさ」
「どうして、何が彼の人に解るものですが。世間的の人間——詩人的の人間——だから誤解は起るのだ少し經つたら一緒に來い——人間と云ふものは御互の長所で向ふの短所を補はなければならない——と何時でもこうだ。へ、それがどうした。其故ドロシーは訴えるに所なく困りて苦むんだ。どうしたつて結着を付けます　キーンは丁度遠足に出掛てゐる處ですから私行つて遣つて來ます。」
「何だか六ケ敷なつたですね。僕は君と一緒に行きましよう」
「御出になつても宜しいです。御出でなさい」
　森は全く夜に包まれてしまつた。出掛けたは出掛けたなれど道は極めて漠然として居る。殊に谷に落ち込んでる處などは殆んど道路の見分が付かない。山の横合を登りかゝると道は分明るが行方は深い谷で左方は低い樹木が遙か彼方にて廣がつてゐる。星の光の中にキーンの姿が見えた。グラハムは遙かに
「君は一体何處へ行つた」
と云つた。全く喧嘩腰である。キーンは首を擡げて突立つたけれども、別に驚きもせず笑ひ乍ら進み出てゝ
「永い遠足を行つてね。それは實に見事だつたよ。君も一緒であれば善かつたと思つたよ。併し何如して出し拔けに左樣ことを聞くの」
「善い加減なことを言つてるから聞くんだ。君はハイランド、フォールス、かウエスト、ポイントか何處かに秘密に女に逢ひに行てゐるに違ひない」
　キーンは再び笑つた。
「何と言つて善いか僕にも分らない。何れにしても散歩は散歩だ。併し散歩をするに不思議はないさ。何だか君は大變怒つてゐるぢやないか。如何したんだ」
「如何したつてゐことがあるか!?!貴樣は全然犬畜生見た樣な奴だ。愛してゐると言つて置き乍ら散々に苦めて居る」
「なーるほど、其にしてもドロシーは遊散事を君に言つて與れと頼んだの。遠慮なく言つて與れ給へ」
「馬鹿、彼女が死んでも遊散事を頼む女かい。貴樣の鬼の樣な心が彼女を殺し掛けてゐると言ふんだ。そんなに迫害る位なら一層捨てつちまへば善いぢやないか」
「宜し〳〵解つた〳〵。いやに親切ごかしに言つてゐるぢやないか」
「畜生奴、失敬なことをぬかしたな。さあ此通りだ」と言ふや否やグラハムはキーンの喉笛を目蒐けて摑みかゝつた。キーンは極めて沈着に僞乎と身構して飛び蒐つて來る敵の胸板を目掛けて握り固めた拳で烈しく突いて後ろに退いた。自分は此爭に中へ割り込み先づグラハムを捉へて搾りに擁めた。我々三人が互に呼吸を忙しく狼狽して絶壁の上に立つてる時、少女の歌ふ聲が幽暗に覆はれたる谷間を渡つて來る。そは以前自分が聞いたヘリックの歌である。

やはらぎにみつ　　このこゝろ
あいにみちたる　　このこゝろ
つよくはけしき　　このこゝろ
わづらひもなき　　このこゝろ
君がみまへに　　さゝげなん。

「さ、君、御互に馬鹿げ切つて居るぢやありませんか。こんな腕力沙汰て事が分りますか。御互ひの耻ではありませんか。向ふの方に歌つてゐる女の聲が聞へませんか。彼女にしても斯樣ことを聞いたら如何に心配

するてしやう。又兩人の內一人ても怪我したり一命を果したりする樣なことがあつたら如何許り苦心するてせう。今度の事は私に御預けなさい』

『有難ふ、左樣しませう。こんなことするのは無論私の本意ぢやありません。なーに今の事はつまらぬことてす。私はよします。』とキーンは元の態に歸り身を取り繕ひ乍ら言つた。それて今度自分はグラハムに

『君は何如します』と聞くと彼は暫し躊躇してゐたが苦々しい調子て

『一つの條件の下に調和します』

『其條件つて云うと』

『キーンが家を出て行く譯を說明さえすれば』

『君どうします』と自分がキーンに聞くと

『何方とも言へませぬ。私はグラハムから强いて私の事に立ち入つて貰ふ譯は少しもありませぬ。余くあの人には關係ない事てす。假りに一歩を讓つて强いて說明して見た處てグラハムには分りもしません。グラハムには私は說明しません。其敎併し貴兄にならはわけを言つても宜しいてす。明日は丁度日曜日てすが、大切な用事があるからと言へば禮拜に出なくても宜ゝてしやう。主人も別に八ヶ釜敷も言はないてしやう。それて私と一緖に遠足に御出て下さい、そうすると私は私の遠足の譯を說明します。それて私が他の女に逢ひに行くか何かのの外出の譯が分ります』と答へる。

『君はそれて滿足てすか』と私がグラハムに聞くと

『それて私は滿足します。兎に角今の處は私はそれて滿足します。そして先頭私の言つた事は取り消しにして貰ひたいてす』と云ふ。

『ナーニ、關はないさ。一寸怒つて言つたこつたもの。それに誤解と云ふものは誰れにでもあるこつたもの』とキーンは余にグラハムに言つた。

そこて我々は連れ立つて山を下り始めた、するとドロシーが暗がりの裡からほんのりと現ばれてきた。何となく不安の調子て少女は言つた。

『諸兄は茲て何をして居らしつたの。ずつと下の方からだつて聲が聞えるんてすもの。全然、喧嘩見たいだつたわ。何をあんなに話してゐらしたの』

『なーに、、散步のこと――ウム散步のことだ――そう、方々の景色などのことて御互ひに彼處が善い、此處が善いと話しゝてゐたのさ。全然議論見た樣さ。御前はこゝゐらのことを能く知つてゐるが何處が善いと思ふ？又ヒール、トップの前の丘が一等好きだと云うだらう。定まつてゐるれ』

『そうよ、本當に私彼處が一等好きよ。彼處がありさいすりや。他の處なんかなくつても善い樣なものよ』（未完）

義きことのために責らるゝ者は福なり。天國は即ち其人の者なれば也。我ために人汝等を罵（のゝしり）　た迫害（せめ）いつはりて各樣の惡言を言はん。其時は汝等福なり。喜び樂め天國に於て其報賞おゝければ也。

馬太傳五章

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

雜纂

女子基督教青年會萬國大會の景況

エス、シー、フヰッシャー

萬國基督教學生大會が大會議を開きましたのは是迄度々ありました。併し女子部が之に加はりましたのは今度て漸く二回目てあります。幸にも此二回目の大會は日本て開かれました。私は簡單に其景況を述べやうと思ひます。

大會に於て女子部の代表者として東京に集まつたる人々は外國より大約三十五名、我日本から五十名程てありました。先づ日本の代表者の方々の事より申し上げませう。日本には女の基督教青年會が只今十二あります。そして各會から二人の代表者が參列なさいました。大會に列席したこれ等女の方には大抵は教育事業に關係して居る人ばかりて勿論教師と學生てあります。此等の方々は大會の間互に親密におなりなされた事と思ひます、就中小石川の女子基督教青年會の寄宿舍て之等の方々に饗應がありましたのは大變に趣味がありました。皆樣には寄宿舍へ御出てになりまして之から女子青年會がどんな事業をしやうとして居るかを御承知になつたことゝ思ひます。寄宿舍監世眞田孃は寄宿舍てあつた集りの時に殊に御親切てありました。何しろ北は北海道から南は長崎廣島から集まつた人々てありますれば其間に色々有益な申し合せもあつたし趣味もありました。

之と同時に外國から來り集まつて委員の方々は大變に注意を受けられました。先づ皆樣の興味の中心となつた重なる人は勿論ラウス孃てあります。ラウス孃は御存じの如く萬國女子基督教青年會の執事てあります。方々の御話しをなされました。殊に帝國教育會其他重な學校て御話しをせられましたから大層評判の高い人となられました。何しろ二十五ヶ國に奔走して女子教育のために働いて居られますから女子の教育に關しても中にえらい考へを御持ちてあります。大會中には新聞社の人々がラウス孃を取り圍んて居りました。寫眞を撮らうとしたのてすけれども多分一枚も取ることは出來なかつた樣に見えます。ラウス孃が大會中にカバンを取られて演說の草稿と金を失はれたので新聞紙などて其事が世間に傳はり大に世人の同情を惹きました。

次に注目せられた人は印度から來られたシング孃てあります。シング孃の演說は次の號に出る筈てす。シング孃は印度のラックノーと云ふ所のイサベラ、ソーバーン、カレッジと云ふ大學て英文學史の講義をして居られます。カルカッタの大學を卒業せられました時には一番てあつたさうてす。殊に其卒業生の中には男子が多かつたと云ふのを見ても出來る御方と云ふ事が解ります。大會後數週間此國に御在てになつて女子教育に就て研究せられ他日印度の女に教育を改善する上の參考になさるのてあるさうてす。又スペンサー孃が御來朝なすつたのは誠に喜ばしきことてあります。スペンサー孃は東京の有名な女學校仙臺の女學校などて色々御話しをなされました。殊に面白いのはスペンサー孃は此國に於ける工場や店の女の情況を委しく研究して居なさりました。女の勞働者に對しては甚だ同情の深い方てす。其他英、米、和、以及び瑞典より代表者が見へましたが、方々の御話て色々他國の人々の暗示を與へなされました。サイアムより御出てになつたソーワン孃は面白い自國の風俗の儘て出席なされましたから多くの人々の注意を惹きました。孃は一身に日本滯在中の經驗を本國に報告することに力めて居られました。支那を代表して來られました四人の支那婦人も人々

の目を惹きました。此人々も又中々熱心に何事をも注意して研究して居られた樣に見へましたが遊ぶ人等に支那には早晩基督敎女學生の大運動がなければいけないと云つて居られました。
我等女子青年會に關係あるもの大會中に受けたる市民其他大隈伯、後藤男爵など云ふ方々の好意を深厚に對して謝せなければならぬのです。外國より御出てになつた方々は喜欣んで御歸りになつたことゝ思ひます。

我等が先頃見た樣な大會の後で考へる事は神の力は成程一人一國民の上にも現はるれども大勢の人各種の人が集まつて一つのことをなす時に最も現はれ樣に見へることとです。神の愛神の眞理は一個人又は數人の負擔としては重すぎます。共同一致して神の王國を建ることと甚だ必要の樣に見へます。大會の後又一つ感じたことは我々が世界的の一致を保たんとするにはエスキリストに對する愛がなくては出來ないと云ふことてす。青年會の大會席上にあつた「基督に於て一なり」と云ふ言はよく此精神を現はしてゐます。各國の人口が互に其國語て切なる祈禱をなしましたが歸する所は基督に於て一になると精神てありました。基督に對する愛の力てなくては制底世界各國より總ての人々を引き來つて相共に手を取つて勵ましむると出來ません。

伊藤侯は韓國から大會を祝して打電せられました。其中に『今回の大會は日本の歷史上特筆大書すべきことなり』と申して居られましたが大會に關係なされた皆樣は矢張り同樣の御感じを持つて御在てのことゝ思ひます。我等は日本の女子基督敎青年會か此大なる會合に加はることを得たのを心から欣んで居ります。

各地女子基督教靑年會情況

麴町女子英學塾靑年會

塾内に靑年會創立に關し寄り〳〵相談ありしか二月二十六日發會式を擧ぐる運に到れり。此日ラウス孃の講話ありたり。題はキリスト信徒の義務、責任、特權、及び世界各國に於ける女子靑年の情勢と云ふにありき。マクドナルド孃よりも一場の話ありたり。役員事務員左の如く決定す。

會長　檜垣茂子　會計　川石靜子
書記　山田豊野
事務員　望月よれ子　奧山ます子　山下とめ子　小林　蕊子
　林　あき子

爾後引き續き盛んなる會合ありたり。

橫濱フエリス女學校靑年會

現今正會員三十名あり。毎週木曜に集會を開き全校學生をも導き入るゝことゝなり居れり、其他校外の事務としては日曜學校を市内數ヶ所に開き居ることとなり。

德島市女子靑年會

去る三十八年六月中設立せられたり。現在の正會員三十八名。毎月一回の集會を催ふす。外に臨時の會合あり。又毎月第一第三の金曜日には午後二時より慈善仕事會あり。未信者割合に合し。

橫濱女子基督敎靑年會

寄宿會を置き活動をなしつゝあり。毎月一回講話會合あり。

大阪ウヰルミナ女學校靑年會

役員會長、深井たい子、會計川本みぎわ子、書記川口よし子、副會長中川たま子、上田たま子、中田ともゑ、森田あい子、小池とらゑ子。
四月十三日より既に四回の集會ありき。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

YOUNG WOMEN
OF
JAPAN

Vol. IV *May 15th, 1907* *No. 5*

Miss M.A.Whitman, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-Chairman
Miss A.G.Lewis, Secretary
Miss Sarah Ellis, Treasurer
Miss Michi Kawai, Active Member of the World's Committee
Miss Michi Matsuda, Editor of "Young Women of Japan."

Resident Members	Non-resident Members
Miss Ume Tsuda	Miss K. Tristram, Osaka
Mrs. Hatsu Watanabe	Miss L. Hamilton, Osaka
Miss A. B. West	Mrs. V.W.Helm, Kobe
Dr. Tomo Inouye	Mrs. G. S. Phelps, Kyoto
Mrs. G. M. Fisher	Miss E. M. Soper, Nagoya
Miss Hama Hirano	Miss N. B. Gaines, Hiroshima
Miss Sumi Miyagawa	Miss L. Zurfluh, Sendai
	Miss M. Brownlow, Hakodate

Miss A. Caroline Macdonald,
General Secretary
Miss Stella Fisher,
Assistant Secretary

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

Before Him shall be gathered all the nations.

Matt. 25 : 32

Vol. IV *May, 1907* *No. 5*

YOUNG WOMEN OF JAPAN

CONTENTS

EDITORIALS :—
The Significance of the Conference.. A. C. Macdonald
The Salvation Army................T. Haraguchi
Our Attitude toward Foreigners......T. Haraguchi
BIBLE STUDY :—
The Kingdom of God ....E. Kashiwai
LITERATURE :—
" Gwen's Canyon " ....Ralph Connor
Translated by Miss Michi Kawai
and Mrs. Yasu Tsujimura
" Spy Rock " ....Henry VanDyke
Translated by T. Haraguchi
MISCELLANEOUS :—
Conference Notes

東京神田美土代町三秀舎印行

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA